

1. UWEPEKER (1)

YÚPET PUTUHU TA INNE KOTAN PORO KOTAN

- 1 Yúpet putuhu ta inne kotan poro kotan, an wa,
- 2 kotankes un kotanpa un a=tusáha (etu) etupsike a=ekúykuy kor apkas-apkas=an kor án=an wa eun eyaytomuskarun hekaci a=ne wa,
- 3 orano kotankes un kotanpa un apkas-apkas=an kor, (ire) i=erampokiwen wa oka utar sine ancikar tu ancikar i=rewsire, kor kusu keraypo, (yo) aynu (ae) aep a=e.
- 4 a=ekíronnu kor a=esánpesituri kor apkas=an kor án=an ayne, tane,
- 5 nína (e) ka (e) eyayenitan (kuni) pakno poro=an orano nína=an wa,
- 6 niske=an wa kotan-opes=an kor, sine ancikar a=i=réwsire tu ancikar a=i=réwsire.
- 7 kasi ta ipe=an kor, án=an ayne a=kopóro.
- 8 poro hekaci a=ne hi ora,

1. 民話 (1)

湧別川の川口に、
村人の多い、
大きな村が

川上まつ子 1976年8月6日録音

- 1 湧別川の川口に、村人の多い、大きな村があって、
- 2 私は、ものごころついたときには、村の下手(しもて)へ村の上手(かみて)へと、いつも袖の端をかみながら歩いている男の子でした。
- 3 そうして、村の下手へ、村の上手へと放浪していると、私をかわいそうに思ってくれている人たちが、一晚とか二晩とか泊めてくれて、そうするとそのおかげで私は人間の食べ物を食べることができました。
- 4 満腹するといいい気分になって、また放浪して暮らしていましたが、もう、
- 5 たきぎとりも自分でできるほど大きくなってからは、たきぎとりをして、
- 6 たきぎを束ねて背負って、村に沿って上(かみ)へ下(しも)へと歩いては、一晚泊めてもらったり、二晩泊めてもらったりしました。
- 7 そうやって食べて暮らしているうちに大きくなりました。
- 8 大きくなってからは、村人たちが

- 1 **Yúpet** ユペト [地名] 湧別(ゆうべつ)。沙流川下流、福満出身のワテケさん、サダモさん(以下、(福満W, S)と略記する)は、北見の湧別(紋別郡の湧別川筋)のことを言っていたが、語り手の川上まつ子さん(以下、(語り手KM)と略記する)は「石狩の並びだろうが、石狩の次の川だか手前の川だか」と言った。
- 2 **eyaytomuskarun** エヤイトムシカルン [e-yaytomuskarun (そのこと)に・気がつく] (語り手KM) :《気づいた、小さいときにわからなかったものが自分がそうやっていることが気いついた》。その前のeun<...(のほう)へ>は、この場合、《そういうふうにして暮らしていたときに》。(二風谷HC)は同じことを tomo eyaysikarun トモ エヤイシカルンと言っている(『音声資料5』)。yaytomuskarun(気がつく、我にかえる)。☞183-2
- 3-1 **i-rewsire** イレウシレ ここでいったん文が完結し、その次に接続助詞 kor コロ<...したときは、...すると>が来て、前の文がより大きい文の中に取り込まれている。アイヌ語によくある構文。
- 3-2 **kus keraypo** クス ケライポ 《...したおかげで》。ここでは《...泊めてくれたおかげで》。間に kor<...すると>が入っているが、《...泊めてくれると、そのおかげで》。
- 3-3 **aynu aep a=e** アイヌ アエファエ 《人間の食べ物(らしいもの)を食べた》。文法上は aynu ep(人間が食べる物)または aynu e aep(人間が食べる食べ物)と言うと理屈に合うが、そう言っていない。
- 4 **esanpesituri** エサンベシトゥリ 直訳すると、《それできもちがよくなる》。
- 5 **eyayenitan** エヤエニタン [e-yay-e-nitan...について・自分・で・速い]《(仕事が)自分でできる》。(語り手KM) :「自分で働ける、速いことでない」、《自分で(まきとり仕事)できる(くらいになった)》。
- 6-1 **niske** ニシケ 【自動】[<ni-sike 木たきぎ・荷を背負う>]《たきぎを背負う(=運ぶ)》。sike シケの i が無声化した結果脱落したもの。いつも niske ニシケと発音されている。
- 6-2 **kotan-opes** コタヌオベシ 【自動】[kotan-opes 集落・に沿って下る] (語り手KM) :《部落なりに歩いた》、《コタンに沿って上(かみ)へ、下(しも)へ》。opes オベシは turasi トウラシ<...に沿って上る>の対語として下手(しもて)へ下ることを表すが、turasi トウラシとの対になっていないときは、下手へだけとはかぎらない。
- 7 **kasi ta** カシタ 直訳すると《その上で》だが、慣用的に《...しながら、...しているときにそれと同時に》。この場合は、泊めてもらったときに食べ物も食べさせてもらったことを言っている。
- 8-1 **poro hekaci** ポロ ヘカチ [大きい・少年]。十二、三歳から十五、六歳ぐらいの、大人のする仕事がある程度できるようになった少年。女の子なら poro matkaci ポロマトカチ。☞民話(2) 13

a=utárihi ene iki pa wa a=nukár hi
 ne kusu, cisenikar=an wa pon cise
 a=kar wa oro ta án=an wa,
 9 kim péka iki=an kor,
 a=utárutari kúwari ne ya nen nen
 iki pa siri a=nukár wa, a=eyúkar
 wa yuk-kúwari kamuy-kúwari (a)
 a=kar kor,
 10 kamuy i=erampokiwen pe
 sóne kusu, yuk ne ya kamuy ne
 ya a = o s k o n i (a y y a y)
 a=eyáykopuntek kor,
 11 a=kotánu ta earkinne
 i=erampokiwen okkaypo sinep an
 pe ne kus kamuy a=oskoni kor ene
 a=ri kuni ene a=hopúnire kuni
 i=epakasnu wa néno iki=an.
 12 “yuk ne yakka néno, (e) tap
 néno tap néno a=kar wa a=satsatu
 ka ki, a=e ka ki p ne na”
 13 sekor hawean kor i=epakasnu
 wa néno iki=an kor án=an,
 14 wa cihoki (uwekarpa, ahu, u,
 u) a=uwékarire kor, ora (néa ok)
 ne okkaypo sine sintoko tu sintoko
 póka (réra a) tasare wa i=kore (wa)
 kor, a=eyáykopuntek kor,
 15 pon cise or ta, a=sopakehe ta,
 a=a n ú wa a = n u k á r k o r
 a=eyáykopuntek kor án=an kor,
 16 a=kotánu un utar mákan oka

やっているやり方を見よう見まね
 で、家の材木を作って、小さな家を
 建てて、そこに住みました。そし
 て、
 9 山へ行くと、村人たちが、わなを
 仕掛けたり、いろいろしている様子
 を見て、それをまねて、鹿をとるわ
 なや熊をとるわなを仕掛けると、
 10 本当に神様が私をあわれんでく
 れるものですから、鹿やら熊やらが
 とれました。私が喜んでいて、
 11 村に、私にとても同情してくれ
 ている若い男の人が一人いたので、
 私が熊をとると、その人が皮の剥
 (は)ぎ方や霊送りのやり方を教えて
 くれて、私はそのとおりにしまし
 ました。
 12 「鹿でも同じように、こうして、
 こうして、干したり食べたりするの
 だよ」
 13 と言いながら、やり方を教えて
 くれるので、私はそのとおりにして
 いました。
 14 そして、交易に持って行く品を
 集めると、その若者がシントコの一
 つ二つとでも交換してくれます。そ
 うすると私はうれしくなって、
 15 小さな家の上座の方に置いて、
 それをながめては喜んでいました。
 すると、
 16 村の人たちが、どういいうやつら

- 8-2 **a=utárihi ... kusu** アウタリヒ...クス 直訳すると《(彼らが)して私が見たやり方だから》=《(彼らの)やり方を私は見ていたから》。『音声資料2』(福満W民話) p. 14に同じ構文がある。
- 9-1 **kim péka iki** キム ベカ イキ [山・で・ものごとをする] この場合は、狩猟に行っている。
- 9-2 **kúwari** クワリ [kuw-ári 仕掛け弓・を置く]《アマッポ(仕掛け弓)と呼ばれるわなをしかける》。アマッポは ku ク [概]、kuwehe クウェヘ [所] で語幹は kuw-クウ。つけてある糸に動物が触れると止め具がはずれて矢が発射する仕掛けになっている。
- 9-3 **nen nen** ネン ネン néun néun ネウン ネウン(いろいろと)の縮まった形。
- 10-1 **kamuy ... sóne kusu** カムイ ... ソネ クス 直訳すると《神が私をあわれんでくれるのが本だから》=《本当に神があわれんでくれるので》。
- 10-2 **oskoni** オシコニ 《...をつかまえる、...に追いつく、...を手に入れる》。反対語は orawki オラウキ。☞66-3
- 11-1 **a=kotánu ... kus** アコタヌ ... クス 挿入句。
- 11-2 **hopunire** ホプニレ 直訳すると《...を飛ばす》。霊を神の国へ送りかえすことを言う。この場合は、(語り手KM)：「maratto マラット《熊の頭》を hopunire すること、inaw イナウ《木の御幣》をたくさんつけて、もとの神さんにもどって行くようにって」。神の霊は頭蓋骨に宿っており、イナウ(inaw)をつけられて木の棒の上ののせられてから、東の空の上の神の国へ帰って行くという。この言葉は熊でなくても、他の動物にも使われる。
- 14-1 **wa** ワ 《...して》。この前の án=an で、いったん文が完結しているが、そのあとにこの接続助詞が置かれて、前の文がより大きい文の中の一部になる。3の i=rewsire, kor と同じ現象。
- 14-2 **cihoki** チホキ [ci-hok-i (中相)...される・買う・もの]《(交易の)商品》。(語り手KM)：「売り物になるクマの皮、シカの皮、クマノイ(ninke ニンケ)」、「乾肉は入らない、皮だけ、乾肉は食べる」。
- 14-3 **sintoko** シントコ 《シントコ》。交易で和人から入った、木製うるしぬりのふたつきの大きい入れ物。宝器として家の上座に置かれた。昔の日本語で行器(ほかい)と呼ばれたもの。そのあとの póka ポカは《(少ないがせめて)...だけでも》。
- 14-4 **réra** レラ 《(食べ物や必要なもの)を交易で手に入れる》。(福満W民話)に和人の交易の例がある。tasare タサレは《...と...を交換する》。
- 15 **sópakehe** ソパケヘ [so-pa-ke(he) 座・の上(上)・(所属語尾)] 家の中の上座のほう(沙流地方では東のほう)。いちばん奥の, rorunpuyar ロルンプヤァ《上座の窓》の下の北寄りのところに家の守り神(cisekorkamuy)が置いてあるが、そのすぐそば、それを隠さないように少しだけ離して、北側の壁沿いに、東のほうから宝物を並べて置く。

utar, weysanpekor pa p

17 “ta, e=onaha ta
a=eyáysukupka p an a kusu,
e=unuhtu ta a=eyáysukupka p an a
kusu”

18 sekor haweoka kor a=kor
sintoko i=kokerkeri wa isam. kor
ora cis=an a an a kor,

19 “ona ne manu p unu ne manu
p a=kor pe ne hike makanak iki=an
wa ene, sinen a=ne wa, yayeramu
ka sitne=an kor án=an ayne,

20 a=kopóro p ora ene a=i=ékeske
siri ene an?”

21 sekor yaynu=an kor cis patek
a=ki kor ne hikeka ora suy, (kim,
kimun=an) ekimne=an kor,

22 kamuy(kocinas)kocikasnukar
a=ki wa, yuk ne ciki kamuy ne ciki
etakasure a=emónipirka.

23 pe ne kusu iruka ne kor suy
cihoki toska a=uwékarpare kor,
néa okkaypo usa okay pe (ta)
tasare. imi otta aep otta, usa
coypep ne ciki, (i) i=tura wa
i=kotcake ne wa tasare wa i=kore
kor, iyoykir pon iyoykir a=kar wa
a=eyáykopuntek kor nani suy,

24 “tapne ta tapne ta ne”

25 sekor haw as kor
a=i=kókerkeri wa isam.

だか、悪い心を持ったやつが、

17 「おまえの父親に貸しがあったのだから、おまえの母親に貸しがあったのだから」

18 と言って、私のシントコをみんながささらって行ってしまいました。すると私は泣きながら、

19 「ほくにもおとうさん、おかあさんというものがいたのなら、どうしてこんなふうに、たった一人で苦労しながら生きてきて、

20 大きくなったのに、こんどは、こんなふうになたまれていじめられるのだろうか？」

21 と思って、泣いてばかりいました。それでもまた、山へ行くと、

22 神様に助けてもらえるので、鹿でも熊でもほかの人よりたくさんとれました。

23 ですから、少したつと、また私は交易に持って行く品を山ほど集めました。すると例の若い男の人がいろいろなものと交換してくれました。着物やら食べ物やら、いろいろ宝器類など、私を連れて行って、私の代わりに交換してくれると、私は宝壇、小さな宝壇を作って喜んでいました。するとすぐにまた、

24 「こうこう、こうなんだ」

25 と言われて、みんな持って行か

- 16 **weysanpekor** ウエイサンペコル [kwen-sanpe-kor 悪い・精神・を持っている] (語り手KM)は、「sの前でnはyになる」という音素交替規則を持っていないようだが、この語は、できあがった一語として、このように昔の人と同じ発音をしている。
- 17 **eyaysukupka** エヤイスクパカ 《(苦勞したこと、つらい目にあわされたことなど)が忘れられないを思い出してくやく思う》、《(その人への恨み/憎しみを思い出す/忘れられない)。この場合は、(語り手KM)：《かたきをもった》、「onaha(父親)も unuhu(母親)もわからないもの、貸したものを返してもらってないから、これもおれのだ、これも、と言って取って行ってしまった》。
- 18 **i-kokerikeri** イコケリケリ [ko-kerikeri ...に/(所有者を表す)・...を削り取る/かきさらう]《(彼らは)私の...を全部かきさらうように持って行ってしまった》。kerikeri/kerikeriは、(語り手KM)：「二つあっても三つあってもみんな持って行くこと」。次のようにも使う：munikerikeri(草を削り取る)(語り手KM)、cise onnaya-kerikeri(家の中のほこりがつもっているのを削り取って(掃除して)よごれを落とした)(福満W民話)。
- 19-1 **ona ne manu p...ne hike** オナ ネ マヌ ... ネイケ 直訳すると《私は父親というものの、母親というものを持っているのだが》。(語り手KM)：《父親・母親いたものであれば、どうして...》。
- 19-2 **makanak iki-an wa** マカナク イキアヌワ 直訳すると《私がどうしたので》。
- 20 **ekeske** エケッケ 【複他動】[e-keske...のことで・(人)をねたみ憎む]《...のことで...をねたみ憎む》。(語り手KM)：「たしかに見たところはいい男、いい nispa(立派な長者)になれるというので、自分よりも asuru as(評判がいい)するからと、恨んで怒って、殺すか追い出すかするくらいに keske する」。☞27 keske
- 21 **ekimne-an** エキムネアン kimun-an と言っているが、あとで語り手自身が訂正した。(語り手KM)：「ekimne-an だね。kimun-an は iwor or ta kucacise kar wa oro ta an(山奥の猟場に行行って狩小屋をつくってそこに滞在)することが kimun-an。itto ekimne(日帰りの山行き)(今日出て晩に帰って来る)は、ekimne-an」。
- 22-1 **kamuy-kocikasnukar a=ki wa** カムイコチカシヌカラ アキワ [ko-ci-kasi-nukar ...に・(中相)...される・その上・を見る] (語り手KM)：《神さんに見てもらえるから》、《神さんに守られているから(特別熊でも鹿でも取れる)》。同じ語り手が、説明の中では、同じことを kamuy-kocikasnukar-an kusu とも言った。☞87-4 cikasnukar
- 22-2 **emonipirka** エモニピリカ [e-moni-pirka ...に関して・働か(が)・よい]《(獲物)がたくさんとれる》。『音声資料6』(二風谷NK民話)：monipirka(獲物がたくさんとれる)。
- 23-1 **coypep** チョイペパ (1) c=oypep [c(i)-o-ipe-p 私たちが・そこから・ものを食べる・もの]《(私たちの食器)、(2) <(1) 宝器の中の食器類。ここでは(2)。(福満W, S)：coypep(陳列してある食器類)、aoypep(食器一般)。(語り手KM)：「coypep は itanki」、「sintoko、patci、otcike は別」。(ペナコリUT)：「itanki でも何でも coypep だ」、「自分の使っている茶わん、お皿、湯呑などで、patci は入らない」。(千歳SN)：「自分の使っているお茶わん、お皿、それに、patci も sintoko も」、「aoypep も (coypep と) 同じこと」。
- 23-2 **iyoykir** イヨイキリ sintoko や patci などの宝器類を並べたり積んだりしてあるその全体。家の中の右座側(入って左側)の上座のほうに置かれる。

- 26 patek ki kor án=an ayne tane okkaypo sirpo a=uwósmare hi ora yaykosiramস্যুপা=an hike,
- 27 “ney ta pakno tan kotan ta án=an yakka, ene a=i=késke sir an pe,
- 28 makanak iki=an wa (ya) yayetuytak kuni p a=ne p an?
- 29 nen ka (yayiekesu wa) yayikesuyre=an wa ne yak, oya kotan ta arpa=an ciki somo ikan?
- 30 okkayo a=ne kusu nen póka yayepuriwen=an wa, ene okkaypo utar sukup pa sir néno iki=an easkay pe”
- 31 sekor yaynu=an hikusu ora sine ancikar, yayetokoyki=an wa, (yayikesuye) ikesuye=an wa pet turasi arpa=an ayne, an epitta pet turasi arpa=an ayne, (si) sirkopeker=an.
- 32 sirpeker(hi) hi ora ka, somo setak apkas=an ayne, tane (sit) (cup) nupuri ka cup rari kane kor inne kotan poro kotan a=kosírepa. hikusu
- 33 “úse kur cise or ta henoye=an (hi) hi pirka p he an? kotankorkur oro ta henoye=an ciki he pirka p an?”
- 34 sekor (yay) yaynu=an kusu,
- れてしまいました。
- 26 いつもそんなふうにして暮らしていましたが、もう一人前の若らしい姿になってから、私はこんなことを考えました。
- 27 「いつまでもこの村にいても、このように憎まれているのだから、
- 28 どうすれば身を立てていけるだろうか、いけるはずがない。
- 29 なんとかこの村を出て、よその村へ行ったら、なんとかなるのではないだろうか。
- 30 私は男だから、なんとかがんばって、若い男たちが生きていくように私もできるのだが」
- 31 と思いましたから、ある晩したくをして、村を出て、川に沿って上流の方へのぼって行きました。夜どおし川をさかのぼって歩いて行くうちに夜が明けました。
- 32 夜が明けてからも、そうとう歩き続けて、今はもう山の上に太陽が沈もうとする夕方近くになって、村人の多い大きな村に着きました。それで、
- 33 「ふつうの村人の家に寄るほうがいいだろうか、村おさのところに寄ったほうがいいのだろうか？」
- 34 と思ったので、立ち止まっては

- 26 **okkaypo sirpo uwosmare** オックカイポ シルポ ウウォシマレ [若い男性・様子(指小辞つき)・をすっかり備える]《一人前の若い男性らしい姿になる》、男の子が成長して一人前になったことを言う。『音声資料6』(二風谷NK民話)では、同じことを **okkaypo sirpo uwosmare** オッカヨ シルポ ウウォシマレ と言っている。
- 27 **keske** ケスケ 《(人)をねたみ憎む》。心で憎く思うだけでなく、いじめるとか殺すとかの、ひどい目に合わせる行為まで前提として言う語らしい。(語り手KM)：「憎まれ、親のかたきとしてとられてしまう。何でもよくとれるし、自分らよりも評判よくなれば悪いということで」。☞20 **ekeske**
- 28 **yayetuytak** ヤイエトウイタク 《一人前の男として立派に生活していく》。この語の含まれている部分、(語り手KM)：「そんな村にいつまでいても **nispa** にもなれない、男になれない、生活し(よその部落行ったら...若い人らのようにやっていけるんでないか)」。
- 29-1 **yayikesuyre** ヤイケスイレ [yay-ikesuy-re 自分・いやだから立ち去る・させる]《自分で出ていく》。
- 29-2 **ikan** イカン イカンとイキャンとの中間の発音になっている。ika がイキャにやや近くなるのは、この話者の発音の特徴の一つであり、ika opas イカ オパス、ika opiwki イカ オピウキ、ikasuy イカスイ など、たくさんの語にも、同じことが起こっている。...ciki somo ikan...チキ ソモイカン [...すれば・(否定)・ひょっとして(いいことがある)]「...すればなんとかなるのではないだろうか」。35に同じ表現がある。
- 30 **yayepuriwen** ヤイエプリウエン [yay-epuriwen 自分・のためにがんばる] (語り手KM)：《自分でがんばって自分が男になる》。epuriwen エプリウエン [e-puri-wen...とともに・素行・悪くなる]《...に加勢する(志を果たすのに協力して事を行う)》。(平取HK) (『音声資料6』)
- 31 **ikesuye** イケスイエ 他の人は **ikesuy** イケスイ という。(語り手KM) も、**yayikesuyre** ヤイケスイレ という語の中では **ikesuy** イケスイ の形で言っている。☞29-1, 67-3
- 32-1 **somo setak** ソモ セタク [(否定)・短時間である] ずいぶん長い間。
- 32-2 **nupuri ka cup rari kane kor** スプリ カチュラリ カネ コロ [山・の上・太陽...を押さえつける...している・ときに]《太陽が山にさしかかりそうになったところに》、(語り手KM)：《夕方近くなってから》。

emakaas emakaas a=ki a korka
yaykosiramsuypa=an hike

35 “kotankorkur oro ta
henoye=an ciki somo ikan?”

36 sekor yaynu=an hikusu ora
kotankorkur cise soyke ta sir-
kikkik=an akusu,

37 aynu soyne humi as híne
a=nukár hike, neyke huyke itak
kus ruwe isam no an pirka wa
okere katkemat, (rup) rupnemat
soyne híne,

38 mákan síno a=katúhu an wa
ne siri ne ya, tekkakipo rauyruke
rikuyruke, ramno kane oripak wa
i=nukar wa an ayne,

39 horkano hosipi híne, (uy) cise
or un hakakne itak ne korka,
a=kisár(puy)puyehe cúninpare
hawe ene an hi,

40 “ney ta sukup pe okkaypo
nispá ne ruwe ne ya, kamuy ne
ruwe ne ya aynu ne ruwe ne ya
a=erámiskari no, imeru kusu
a=nukár ka ewen, kamuy okkaypo
soy ta ek wa an ruwe ne na.”

41 sekor hawean hawe as akusu,
onnekur itak hawe as. iruska kor,

42 “ene poo iyomommomo
somo ki no ka, ahup rusuy kusu
(cise) cisesoy ta arki p anakne

また歩き、立ち止まってはまた歩き
していましたが、よくよく考えてみ
ると、

35 「村おさのところに寄ったら、な
んとかなるのではないかな？」

36 と思ったので、村おさの家の門
口で、ものをたたいて音をたてまし
た、すると、

37 人が外に出て来る音がしまし
た。見ると、どこもかしこも文句の
つけようのない、ほんとうに美しい
奥様、あまり若くない女性が出て来
て、

38 私がどんなに美しく輝いて見え
るのか、目の上にかざした手を下げ
たり上げたりし、目も上げずにかし
こまって私をしばらく見ていてから、
39 あともどりして行きました。家
の中から、小声での話でしたが、こ
んな話が私の耳にちゃんと聞こえて
きました。

40 「どこで育ったお若い方なのだ
か、神様なのか人間なのかわからな
いほど、光り輝いていてよく見えな
いような、立派なお若い方が、戸口
のところに来ていらっしゃいます」

41 という声がありました。すると、
年配の男の人の話す声がありました。
怒りながら、

42 「そんなにこまごまと言わなくて
も、入りたくて家の門口までやって

- 34 **emakaas emakaas** エマカアシ エマカアシ [e-maka-as その頭・うしろへ・立ち止まる]後にkiを置いて、《(ちゅうちょして)立ち止まり、立ち止まりした》。(語り手KM) : 《立って考えてはまた歩き、また立って考えてはまた歩き出した》。
- 35 **ciki somo ikan** チキ ツモ イカン (語り手KM) : 《kotankor kur(村おさ)のところに寄ったほうがなんとかなるんでないべかと思って》。☞29-2
- 36 **sir-kikkik** シッキッキ (語り手KM) : 《simusiska した》。しかし、simusiska(来訪を知らせるために)咳払いする)に対し、sir-kikkik [あたり・をトントンたく]は、通常は、柱かそのあたりの木か何かをトントンたたいて音をたてる。
- 37-1 **neyke huyke itak kus ruwe isam** ネイケ フイケ イタク クスルウエイサム [どこ(所属形)・(ごろ合わせ、hu は hunak(どこ)の hu)・言葉・...を通る・ところ・ない]ここから katkemat までの部分、(語り手KM) : 《どこも言い分のない立派な奥さん》。
- 37-2 **rupnemat** ルパネマト [rupne-mat 大人である・女]中年と老年の間ぐらいの女性を指す。《若くない/中年すぎの女性》。文脈から《おばあさん》と訳せることもあるが、húciのように年取ってはいない。この話の女性は四十歳前後であろう。☞民話(2) 191
- 38-1 **katuhu an** カトゥフアン [そのあり方・ある]《へんな恰好をしている》という場合によく使われるが、ここでは、その若者はすばらしく光り輝いて見える。
- 38-2 **tekkakipo rauyruke rikuyruke** テッカキポ ラウイルケ リクイルケ [tek-kaki-po 手・垣(指小辞)] [ra-uyruke 低いところ・...を...につける] [rik-uyruke 高いところ・につける]この三語を続けて慣用句として、《(まぶしいので)手を目の上にかざして、その手を下げたり上げたりする》。(語り手KM) : 《お客さんが特別器量よくて、光って見えるのか、目の上にかざした手を上げ下げしながら》。『幸神謡集』pp. 16-17 : 「tekkakipo rikunruke raunruke 眼の上に手をかざしながら」。
- 38-3 **ramno kane oripak wa** ラムノ カネ オリパク ワ [低く・(強調)・かしまる・...して] (語り手KM) : 《遠慮して、oripak して、かがんだように、あんまり生意気なような高目を使わないで、《下目を使って、パッと上まぶたで見ないで》。
- 39-1 **cise or un** チセ オルン un(…へ)は、見える方向や聞こえてくる方向を表す。
- 39-2 **hakakne itak** ハカクネ イタク 《小声の・言葉》。
- 39-3 **a-kisárpuyehé cúninpare** アキサプアエヘ チュニンパレ 慣用句で、(語り手KM) : 《(低い声で話しているんだけど)自分の耳にはちゃんと聞こえてきた》。cúninpare チュニンパレ は [c(i)-uninpa-re (中相) ...される・...に響く [複]・させる] つまり《...に響く》か。unin 《響く》と nini [単] ; ninpa [複]《...を引っぱる》と関係があるか。《(耳のあなが)引っぱられた》とも解釈できるか。『金虎杖丸』3622 : 「akot turesh / rimimse hawe / apuikotoro / chiuninpare わが妹の / 叫喚のこゑ / わが耳のなかへ / 遠く入り来る」。『久辞典稿』p. 50 : 「chi-u-ninpare <u 互相 相引合ふ》。
- 42-1 **iyomommomo** イヨモンモモ [i-omommomo ものごとを・こまごまと述べる] (語り手KM) : 《そんなにみたくないとか器量いいとか文句言わないですぐ入れれ》。

a=ahúnke p ne hike, hinta hawe as
hi ene okay pe ne wa menoko utar
iyomommomo (mo) pa hawe ene
oka”

43 sekor, onnekur iruska hawe
as akusu ora, nunnupa wa sóanu
humi as híne ora,

44 hetopo ramno kane apatarara
wa i=ahunke kunak i=ye kusu,

45 os reye kane sinu kane
ahun=an híne, cise onnay
a=osíraye.

46 inkar=an hike ineap ta nispa
horari ruwe a=eráyap kor,
reyereye=an wa arpa=an wa,

47 onnekur osisoun wa an, (a, a)
arsoke ta móno á=an akusu,
i=erankarap.

48 rankarap itak takup ne yakka
ineap ta pawetokkor wa hawean
ya ka a=erámiskari.

49 (ae) a=eráyap kor,

50 “néno hawean onnekur ta
turano án=an wa, nen nen usa
isoytak ne ciki, upaskuma ne ciki,
i=epakasnu wa i=kore somo ki p he
an?”

51 sekor (ka) kewtum or ta
yaynu=an kor, onkami=an a an a
kor án=an rápok

52 (niske osura humi as akusu

来た人はお通しするものなのに、何
をそんなにくだぐだと女たちはこま
ごま言うものだな」

43 と、年配の男の人が怒って言う
声がありました。するとそれから、掃
き掃除をし、敷物を敷く音がして、
それから

44 引き返して来て、戸口のすだれ
を低く持ち上げて、私に入るように
言いました。ですから、

45 私はそのあとから、ほうように
してひざでずるようにして入って
行って、家の中に入りました。

46 見ると、なんと立派な長者の住
まい方でしょう。私はそれに感心し
ながら、はって行きました。

47 年配の男の人が右座にいまし
た。その向い側に私が座りますと、
私に挨拶(あいさつ)しました。

48 挨拶の言葉だけにしても、なん
とまあ豊かな言葉で立派に言う様子
は聞いたこともないほどです。

49 私は感嘆して、

50 「こういうふうに話すおじいさん
とこそ、一緒に暮らして、いろいろ
な話とか昔の言い伝えとかを教えて
もらえないものかなあ」

51 と心の中で思いながら、拝礼を
何度もくりかえしてしていました。そう
している間に、

52 (たきぎの背負い荷をおろす音が

- 42-2 **hinta** ヒンタ **hemanta** ヘマンタ〈何〉の縮約形。(福満W, S)は **hrita** フンタ と言っていた。(千歳SN)は使わない、「いつも **hemanta** ヘマンタ を使う」。
- 43 **nunnupa wa sóanu** ヌンヌパワツァヌ **nunnupa** は [<mun-nupa ごみ (<mun) ・を掃く(複)]。 **sóanu** は [敷物(を敷いたゆか) ・を置く] [床に敷物を敷く]。 **nunnupa wa sóanu** (語り手KM) : [掃き掃除してからトマひいて] (トマ=ごぞ)。「音声資料2.5J(福満W)、(二風谷NK) : **sókar hem ki munnuwe hem ki** ツカカヘムキムヌウエヘムキ 〈ごども敷き、掃き掃除もした〉、**nuwe** ヌウエ [単] ; **núpa** ヌバ [複] 〈...を掃く〉。(語り手KM) : **nuye** ヌイエ [単] ; **núpa** ヌバ [複]、この語の中ではごみを **nun** ヌン と言っているが、独立の語としては **mun** ムン を使っている。
- 44-1 **ramno kane apatarara** ラムノ カネ アパタララ [apa-tarara 戸口・を上上げている] 戸口にはカヤをむしろのように編んだ簾(す)が下げられていた。通るときはそれを上げる。〈低く上げた〉とは、すそのほうを少しだけ上げた。(語り手KM) : 「低く **apaotki** アパオトキ(戸口のカヤ)を上げた。男でも **reye kane sinu kane** (⇒45-1) 入るから、あまり高く上げない」、「**oripak** オリパッ〈へりくだりかしこまる〉して低く戸をあけて入るように言った」。「音声資料5J(二風谷KC民話)では、同じことを **toy tukari eapamaka** トイトツカリエアパマカ と言っている。
- 44-2 **i-ahunke kunak i=ye** イヤフンケクナクイイエ 直訳すると〈私を入れることを私に言った〉=〈私に入りなさいと言った〉。同じことを言うのに(二風谷NK) : **i=ahunte kusu i=ye** イヤフンテクスイイエ(「音声資料6J)。
- 45-1 **reye kane sinu kane** レイエカネシヌカネ 〈はいながら、ずりながら〉。へりくだり、遠慮深い態度で身を低くして家に入る様子の描写の常套句。
- 45-2 **osiraye** オシライエ [o-si-ryae (そこに)・自分・を行かせる] 〈...に入る/出る/行く〉。**cise onnay osiraye** (家の中に入る)(雅語的、美文的表現)。
- 46-1 **horari** ホラリ 神や長者が住むことを表す語。**nispa horari ruwe** は、特別に豊かな、立派な住まい方を指している。(語り手KM) : 「たくさん **sintoko**(シントコ)でも **coysep**(食器)でも **emus**(刀)でも **iyoykir**(宝壇の宝物)がいっぱい飾っていること」。
- 46-2 **reyereye-an** レイエレイエアン ひざをついて、はって家に入って行く。⇒45-1
- 47-1 **osisoun wa an** オシソウワアン 〈右座に(座って)いた〉。iが無声化している。
- 47-2 **arsoke ta** アソケタ 〈いろりをはさんで反対側の座に〉。家の主人の席は右座(上座側)から見て右側、入って左側)で、訪問者の席は左座(入って右側)。
- 47-3 **i-erankarap** イエランカラフ アイヌ社会の習慣で、若い訪問者ではなく、家の主人である長老のほうからあいさつした。⇒民話(2) 171-3
- 48 **pawetokkor** パウエトッコロ **pawetok** は [pa-w-etok 口・(挿入音)・の先端]〈雄弁さ〉、**pawetokkor** は〈雄弁さを持つ〉=〈雄弁である〉。豊かな立派な言葉を使ってうまく適切に、説得力をもって、堂々ともを言うことができることを言う。
- 50 **onnekur ta** オンネクルタ **ta** は強めの助詞。〈(こういう方と)こそ(一緒に...)〉。rがtにならず(クッタとならず)に発音されている。
- 51 **onkami** オンカミ 〈拝礼(する)〉。広義にはおじぎなどを含むが、ここでは狭義の用法で、両手を胸の前に出し、てのひらを上に向けて、ゆっくり下から上へ、手前におりぎみに動かし、ときどき両手をすりあわせる、という伝統的な形のあいさつ。

pirka wa okere pon menoko, ahun híne, a, un) niske osura humi as akusu,

53 néa rupnemat soyne híne, án=an hi (yep) ye kotom an akusu ora pon menoko soy-osipita. toykooripak híne ahun.

54 akusu onnekur ene hawean hi,

55 “kamuyyantokor=an tanukuran ki oasi na, pirkano yaske wa pirka suke ekamuyyantokor pe ne ruwe ne na”

56 sekor matnepo ye akusu ineap ta itaknu wa iki ya ka a=erámiskari.

57 yaske a yaske a su (ne e) ne yakka pirkano huraye wa pirka suke suketomte siri a=eráyap kor a=nukár kor án=an rápok,

58 yuk se utar iwak pa humi as híne, ikokamahupte néa pon menoko ki kor án=an hi ye kotom an akusu,

59 soy-osipita utar (tu) tu irwak utura wa ahup pa wa, (s) kiyanne kur apeetok ta móno a, otutanu kur i=rorkehe ta móno a wa, kiyanne kur onaha eun ene hawean hi,

しますと、とてもきれいな若い女の人が入って来て)たきぎの背負い荷をおろす音がしました。すると、

53 さっきの年配の女性が外へ出て、私がいることを言っているようでした。すると、若い女の方は外で身じたくを解き、すっかりかしまって家の中に入って来ました。

54 すると年配の男の方はこう言いました。

55 「神様のように立派なお方を今晚お泊めすることになったから、きれいに手を洗って、きれいに料理して、お泊め申し上げるのだぞ」

56 と娘に言いました。すると、なんとまあよく言うことを聞いて行うものでしょうか。

57 手を何度も洗って、鍋もきれいに洗って、よい料理、立派な料理を作っている様子に私が感心して見ているうちに、

58 鹿を背負った人たちが帰って来た音がして、その娘さんが窓から肉を受け取りながら、私がいることを言っているようでした。すると

59 外で身じたくを解いた人たち、二人の兄弟が連れだって入って来て、年上の方は横座に座り、弟のほうは私のすぐ上座側に座って、年上の方が、父親に向かってこう言いました。

52 **osura** オスラ 《近いところにボンと投げる、捨てる》。この場合は、《(背負って来たたきぎ)をドサッと下におろした》。遠くへ投げ飛ばすことは、**eyapkir** という別語で言う。

53 **soy-ösipita** ソイオシピタ [soy-o-si-pita 外・で・自分・を解く]《外で身支度を解く》。来客があるときは、外で外套などをぬいでから家に入る。そのために、娘が外から帰ってきた音を聞いた母が外に出て、客が来ていることを知らせた。二語のアクセントで言っている。(二風谷KK, NK) : 「soyosipitatpa ソヨシピタトパ」(一語のアクセント) (『音声資料5, 6』)。

55-1 **kamuyyantokor** カムイヤントコル yantokor は [kamuy-yanto-kor 神・宿(＜日本語)・を持つ]《神にお泊まりいただく》。(語り手KM) : 「アイヌでも特別立派だから、神がとまるから」。

55-2 **pirka suke** ピリカ スケ 《よい炊事》。⇨57

57 **suketomte** スケトムテ [suke-tomte 料理・をきれいにする] tomte は、美しく飾ることも言い、人を特別大切にすることにも使う。この場合は、(語り手KM) : 《特別きれいに suke する》、「鍋もきれいに洗って、食べ物もきれいにして、入れることを言うのだろう」。

58 **ikokamahupte** イコカマフテ [i-ko-kam-ahupte 人・に(所有者を表す)・肉・を家の中に入れる] 狩猟から帰ってきた人の持って来た肉を、上座の窓(神の出入りする窓)から受け取って家の中に入れることを言う。主語は家の中で受け取る人、この場合はその家の娘。

59-1 **soy-ösipita** ソヨシピタ 二語のアクセント。しかし、ここでは y と o は一音節 yo になっている。⇨53

59-2 **kiyanne kur apeetok ta...** キヤンネ クル アペエトク タ... 家の主人夫婦の席は右座、子どもたちや来訪者の席は左座(上座側から見て左側、入って右側 ⇨47-2)。帰宅した二人兄弟のうち長男は横座(いろいろの上座側、入って突き当りの座)に座り、次男は左座の、客よりも上座に座った。

- 60 “ney wa omanan pe okkaypo nispa ne ruwe an? a=onáha uwepekennu ruwe he an?”
- 60 「この若い方はどこから旅をして来られたのですか。父上はおたずねになりましたか？」
- 61 sekor hawean. akusu (oha) néa onnekur ene hawean hi,
- 61 と言いました。するとその年配の男の人はこう言いました。
- 62 “oha sukup kur ne (ukoho) ukoytak hi a=ki rusuy kusu eci=iwák hi a=tere wa, (ak) okkaypo nispa a=kouwepekennu ka somo ki no án=an ruwe ne”
- 62 「同じ若い者どうして話し合うほうがいいと思ったから、お前たちが帰って来るのを待っていて、私はお若い方におたずねしないでいたのだ」
- 63 sekor (hawean ak) onnekur hawean akusu ora néa kiyanne kur kanna ruyno i=koonkami kor,
- 63 と老人が言うと、その年上の人、またまた私に拝礼しながら、
- 64 “ney wa apkas pe, (he, ke) kem sawot pe ka oka, tumi sawot pe ka okay pe ne wa (nep) ney wa apkas pe okkaypo nispa ne ruwe an?”
- 64 「どこから旅して来られた方でしょうか。飢饉からのがれて来る人もいますし、戦争からのがれて来る人もいますが、お若い方はどこから旅して来られた方ですか」
- 65 sekor hawean kor i=kouwepekennu hikusu, (a) a=i=kóuwepekennu hi a=tere pakno ka somo ne no,
- 65 と言ってたずねるので、私はたずねられるのを待つまでもなく、
- 66 “tapne tapne, Yúpet putuhu ta, inne kotan (akoya) a=ekótanne wa án=an pe ora unu kor pe ona kor pe a=ne p ne hike, ona ka unu ka orawki p a=ne wa ora,
- 66 「実は、私は湧別の川口の大きい村に住んでいたのですけれども、母も父もいた者ですが、父の顔も母の顔も見たことがないのです。
- 67 néun póka néun póka iki=an wa (pon) pon iyoykir póka a=kar kor, a=i=kókerkeri wa isam patek ki, kanna kannu ki wa, ne wa an
- 67 どうかこうにかして、ほんの小さな宝壇を作ると、そのたびにみんな持って行かれてしまっていました。何度も何度もそんなことがくり

60 **a-onáha** アオナハ 日常会話では、沙流川・門別川中流以上(山手の地域)では **ku-mici** クミチ と言う。

62-1 **oha sukup kur ne** オハ スクアクルネ [ほかになにもなく・若い・人・で]《若い人たちだけで》。(語り手KM) : 《同じ若い者どうしに》。この話者の場合、nの前のrは、たいていnンになるが、ここでは、なっていない。

62-2 **hi ki rusuy** ヒ キルスイ [...すること・をする・...したい]《...してほしい》。

62-3 **a-kouwepekennu** アコウエペケンヌ (=a-kowwepekennu)。a-kowépekennu アコウエペケンヌと発音されることもある。語幹は [ko-uwepeker-nu...に・話・を聞く]。人称接頭辞がつかないときは、kowepekennu コウエペケンヌ という形がよく使われる。☞民話(2) 205

63 **kanna ruyno** カンナルイノ [また(<重ねて)・激しく]《またもや、さらにまたくりかえして》。

64 **ney wa ... ne ruwe an?** ネイワ...ネルウェアン? **apkas** アパカシは、直訳すると《歩く》だが、**omanan** オマナン《出歩く、旅する》と同様にも使われる。この文は、相手にたずねているのだが、主語は **okkaypo nispa** オッカイポ ニシパ《お若いお方》で、3人称。一人前の男性に対してきちんと礼を尽くすような話し方では、このように、相手を3人称に置く言い方がよく出てくる。この文とほぼ同じ質問が、「民話(2)」172にも出ている。

65 **a-tere pakno ka somo ne no** アテレ パクノ カソモネノ (語り手KM) : 《待つまでもなく》。日本語からの翻訳か。「聞かれるの待つまでもなく **motoho ye rusuy** モトホイェルスイ していた《自分がどういう者かを言いたいと思っていた》」。

66-1 **tapne tapne** タッネ タッネ 直訳すると《このように、このように》。引用文の冒頭によく置かれる。もっと前から話していた言葉を省略して、このようにして示し、必要な部分だけを引用する。以前の『音声資料』では、《かくかくしかじかで》と直訳した。この語は、これから引用が始まるという合図の役割も果たしているの、その意味では《実は》という訳ですむ場合もある。

66-2 **inne kotan** インネ コタン [人数が多い・集落]直訳すると《村人の多い村》。**unu korpe ... ne hike** ウヌ コルペ...ネ ヒケ 直訳すると《私は母親を持つ者、父親を持つ者だが》。19に同じ内容が別の表現で出ている。

66-3 **orawki** オラウキ 【他動】《(動物やどろほう)を取り逃がす、(品物など)が手に入らない、(電車やバス)に乗り遅れる》。**oskoni** オシコニ《...に追いつく、...を手に入れる》の対語。ここでは、《親の顔を見たことがない》。(語り手KM) : 「親いたからこそ生まれたものだろうに、親というものを見たことないのに」。

67-1 **a-i-kókerikeri ... patek ki** アイコケリケリ...パテッキ 直訳すると《かきさらわれてしまつてばかりいた》。**patek** パテック《ばかり》は《いつも...する》。**kokerikeri** コケリケリは☞18

pe a=eyáyciste kor án=an ayne
yayikesuyre wa ek pe”

68 a=ne ruwe ne hi a=ye akusu,

69 “hawe ne yakun (iyokake un
so) i=oyakke un somo e=arpa no,
a=poutari turano a=uní ta (a) e=an
wa a=poutari ene iki hi néno é=iki
wa ne yakne,

70 (a=we) a=wenmatnepoho nan
ka sak sir ka sak siri ne yakka
a=pirkakor pe okkew kasi
a=epírkare wa,

71 a=e=sínnacisekore wa (si)
i=soyke ta eci=oká wa ne yakne,
u we p ir ka =an, (u we, u)
uweniste=an pe ne ruwe ne na”

72 sekor onnekur ka okkaypo
utar ka haweoka kor kanna ruyno
i=koonkami.

73 onkami=an a an a kor ora,
pirka ipe a=i=kíre wa ipe=an a an
a. (ya) iperusuy=an ka ki p ne kusu
ipe=an a an a.

74 ora sini=an. uwenewsar=an,
oha okkaypo ne uwenewsar=an pa
kor oka=an ayne, hotke=an pa.

75 isimne hike wano, ne
okkaypo utar a=turá wa kimun=an
hike,

76 okkaypo utar ka ison pe ne
korka nep ne wa sirki ya ka

かえされて、私はそのことを一人で
泣きながら暮らしていましたが、と
うとう自分から村を出て来た者」

68 私はそういう者だということを
言いますと、

69 「それなら、よそへ行かずに、息
子たちと一緒にうちにいて、息子た
ちがするとおりにしていたなら、

70 私のふつつかな娘は、顔もきれ
いではなく、姿も美しくないもので
はありますが、よい宝物を持たせ
て、

71 あなたに別棟を建ててあげます
から、あなた方がうちのとなりに住
んでくれたならば、お互いに幸せで
すし、またお互いに心強いことず
から」

72 と老人も若い男の人たちも言い
ながら、またもや私に拝礼しまし
た。

73 私も拝礼を繰り返してから、ご
ちそうを出されて、たくさん食べま
した。おなががすいていたので、た
くさん食べました。

74 それから休みました。いろいろ
楽しく語り合い、同じ若い男どうし
でしばらくおしゃべりを続けてから
寝ました。

75 翌朝になってから、その若者た
ちと一緒に山へ行きましたが、

76 若者たちも獲物がよくとれまし

67-2 **eyayciste** エヤイチンテ [e-yay-cis-te (そのこと)で・自分・泣く・させる] 直訳すると《(そのこと)で自分を泣かす》。一人で泣いていた。

67-3 **yayikesuyre** ヤイクスイレ [yay-ikesuy-re 自分・いやだから出ていく・させる]《自分で出て行く》。☞29-1,31

68 **a=ne ruwe ne hi a=ye** アネルウェネヒアイエ 直訳すると、《私は...だということ

を私は言った》。tapne tapne タプネ タプネ で始まった主人公の言葉の引用が、いつのまにか地の文になっている。自叙者自身の言った言葉の引用であるから、どこまでが引用で、どこからが地の文なのか、語形の上では区別がつかない。このテキストでは、ギリギリまでを引用の中に含め、最後の部分のみを地の文として分けて書いた。

69-1 **i=oyakke un** イオヤッケ ウン 私たちのいない他のところへ。

69-2 **é=iki** エイキ 発音は eyki。

70-1 **a=wenmatnepoho** アウエンマトネボホ 語幹は [wen-matnepo 悪い・娘]。自分の娘を謙遜して言う言葉。☞156

70-2 **nan ka ... a=pirkare wa** ナンカ ... アピカレワ 娘をとつがせようとする父親が言う常套句。直訳すると《顔もない、姿もないが、後ろ首の上を豊かにして》。後ろ首の上を豊かにするとは、財宝をたくさん背負わせる(=持って行かせる)こと。

71 **sinnacisekore** シンナチセコレ 【他動】[sinna-cise-kor-e 別に/の・家・を持つ・させる]《(人)に別に家を持たせる、別棟に住まわせる》。娘と結婚させて分家とし、隣に家をたてて住まわせる。【知分類人 Jp. 632 : [sinnay-chise-e-anu [別の家におく] ((ホロボツ)) 分家する】。

72 **koonkami** コオンカミ 《...に拝礼(オンカミ)する》。☞51 onkami

73-1 **pirka ipe a=i-kire** ピリカ イペアイキレ 直訳すると《私はよい食事をさせられた》。

73-2 **ipe=an a an a** イペアナアナ 《食べて食べて食べ続けた、どんどん食べた、たくさん食べた》。

74 **oha okkaypo ne** オハ オツカイポネ oha ... ne オハ ... ネについては ☞62-1

75-1 **a=turá** アトゥラ 直訳すると《私は(その若い男たちに)同行して...》。

75-2 **kimun=an** キムヌアン ☞21

a=erámiskari, nep i=etoko ta a=anú
pekor, yuk ne ciki kamuy ne ciki
(a=e a=e) a=eáwnarura.

77 híne (a) ora án=an hi ohor hi
orano,

78 “a=unúhu”, “a=onáha”,
“a=yupíhi”,(e) “pon a=yupí”,
“poro a=yupí”

79 sekor hawean=an kor án=an
wa póhene, a=onáutari

80 “kamuy a=poho”, “kamuy
a=poho”

81 sekor i=ye pa kor, kusu
kamuy sirine a=i-étomte wa án=an
wa nep (a=esíkirap) a=esíkirap
somo ki no án=an.

82 pe ne ayne ora ne imatnepone
p, ne manu onaha kor pe pirka kor
pe matnepoho okkew kasi
epirkare wa i=sinna(anu, a)ante
kunak, (ir, isipar) i=paro osukere
kunak ye p ne akus

83 sonno ka, kotan epitta oka
utar nisuk onnekur ki wa, pirka
cise, a=onáha soyke ta pirka cise,
tutko rerko ne wa a=kar wa,

84 (mákan okay pe) a=onáha kor
wa okay pe mákan okay pe puyar
kari mákan okay pe apa kari (so)
soyo pa wa, kamuy iyoykir pirka
iyoykir kar pa wa ora

たけれども、どうしてそうなるのか
わかりませんが、何か私の行く先に
置かれたかのように、鹿でも熊でも
とれました。

77 しばらく暮らしていてから、

78 「お母さん」、「お父さん」、「お兄
さん」、「小さいお兄さん」、「大きい
お兄さん」

79 と言いながら暮らしていたの
で、なおいっそう、父母は

80 「神のわが息子」、「神のわが息
子」

81 と言いながら、そのために神の
ように大事にされていて、何のつら
い思いもせずに暮らしていました。

82 しばらくしてから、その娘に、
前に言われていた、父親のよい宝物
を娘に持たせて、別に家を持たせ
る、私の食事の世話をさせると老人
は言ったのですが、

83 そのとおりに、老人は村じゅう
の人々を頼んで、立派な家を、父親
の家の隣に立派な家を、二、三日で
建てました。そして、

84 (どういうもの)父親の宝物を、
どういうものは窓から、どういうも
のは戸口から、というように外へ出
して、たいそう立派な宝壇を作っ
て、それから

76-1 **i=etoko ta a=anú pekor** イエトコ タ アヌ ベコロ 獵運に恵まれることを表している。同じことを表す他の常套句: **etoko okake cóyranke** エトコ オカケ チョイランケ《前にも後ろにも下ろされる》(二風谷KC) (『音声資料5』)、**tu ruwetoko re ruwetoko cóyranke** トウルウェトコ レルウェトコ チョイランケ《行く先行く先に下ろされる》(福満W) (『音声資料2』)。

76-2 **eawnarura** エアウナルラ [e-aw-na-rúra その頭・家の中・の方へ・運ぶ]《(獲物)をとって来る》。10では単に **oskoni**《つかまえる、手に入れる》と言っている。

77 **ohor** オホロ 《(時間が)長い》。この語の含まれている部分、直訳すると《(滞在して/暮らして)いるのが長くなってから》。

79 **a=onáutari** アオナウタリ 直訳すると《私の父親たち》。両親を言い表す言い方の一つ。

80 **kamuy a=poho** カムイ アポホ 《神である私の息子》。神のようにすばらしいと評価し、大切に尊重している。

82 **imatnepone p** イマトネポネ 《(親と娘のうちの)娘のほう》。

84-1 **mákan okay pe** マカヌ オカイ ペ [どのようで・ある・もの] たくさんの宝物の中でも、どのようなものかによって、上座の窓から出すか、戸口から出すか、区別される。(語り手KM): 「特別いいものは **puyar kari** プヤル カリ《窓から》(つまり上座の窓から) 出す。これは戸口からでいいというもの(つまり、普通のもの)は戸口から出す、そうやって若い者の **iyoykir** イヨイキリ を作る」。

84-2 **kamuy iyoykir** カムイ イヨイキリ [神・宝壇]《とても立派な宝壇》。iyoykir《宝壇》は 23-2

85 eun ne i=paro osuke kor an a matnepoho turano, sinna a=i=ánte wa, matkor=an wa sinna án=an a p po a=rawketupa kusu, somo sini=an no kunne hene tókap hene arikiki=an kor án=an, yuk cikoykip kamuy cikoykip a=e(an)áwnarura.

86 etakasure rupne kamuy a=oskoni kor a=onáha eun a=se wa arpa=an kor póhene, a=onáha tu ray-onkami re ray-onkami, (i) i=koonkami kor,

87 “keray ne p un, (kamuy) kamuy (kat) kar okaypo kamuy kar po a=poho ne p ne kusu ene cikasnukar e=ki siri ene an!”

88 sekor hawean kor ikopuntek a i=kopuntek a.

89 a=yuputari kar pe uhayta siri isam pe ne korka, a=onáutari eun, poro p a=oskoni kor a=kor wa arpa=an wa, póhene, i=kopuntek kor, pirka uheturaste a=macíhi turano ki wa,

90 a=siwtoutari ne yakka, a=kosínewe. (siro) sir-onuman kor anak a=kosínewe wa, ratci uwenewsar a=ki pa kor oka=an pe ne ruwe ne ayne, sine an ta, a=macíhi ene hawean hi,

91 “a=yuputari, weysanpekor

85 そこに、私の食事の世話をしていた娘と一緒に、別棟を持たされ、結婚して、親たちと別居しましたが、そこで私はなおいっそうよく働くために、休まずに夜も昼も仕事に精を出し、鹿や熊をとって来ました。

86 特別に大きい熊をとったときは、父のところへ持って行きますと、ますます父は私に何度も何度もていねいに拝礼をくりかえしながら、

87 「さすがに神様がつくった若者、神様がつくった息子だから、このように恵まれているのだなあ！」

88 と言いながら、わたしをほめちぎりました。

89 兄たちもすることに不足はないのですけれども、父たちのところへ、私が大物をしとめると持って行くので、いっそう喜ばれて、妻と仲良く幸せに暮らしていました。

90 舅(しゅうと)たちのところにも遊びに行きました。夕方になると遊びに行くと、静かに語り合っていました。そのようにしてしばらく暮らしていましたが、ある日、妻がこう言いました。

91 「兄さんたちが、悪い心、悪い精

- 85-1 **sinna ante** シンナ アンテ *sinna an-te* [別に・いる・させる] 直訳すると〈別に住まわせる〉。
- 85-2 **po a=rawketupa** ポー アラウケトゥパ (語り手KM) : 〈ますますはっちゃきになって働いた〉。他動詞だが、目的語が何かわからない。(福満S)は、接頭辞 *i=* (ものごと(を)) のついた自動詞 *irawketupa* イラウケトゥパを使い、〈仕事をする、何をするにも一生懸命よく働く〉と訳した。現代の「職業」を言い表すのにもこの語を使っていた。「音声資料6」(平取HK民話)にも、自動詞 *irawketupa* が出ており、千歳に魚とりに行った人がそこでいろいろな仕事をするを言う文脈と、伝染病の神が「病気をまき散らすという仕事をする」ことを言う文脈とに使われている。「萱野辞典」:「イラウケトゥパ 集団で働きに来る(行く)」、使う場合の例として、「和人によって強制的につれて行かれて働かされた時など」、「病気をまき散らす神がアイヌの村へ来る時」。本資料の二つの民話では、*i=* のつかない他動詞の形が使われ、熊などを〈とってきた〉と訳される場合にも使われている。102には、*eyayrawketupa* エヤイラウケトゥパ【他動】が出ている。*rawketupa* ラウケトゥパの基本的な意味は〈出掛けて行って...の仕事をする〉または〈出掛けて行って... (生活のかてなど)を手に入れるために働く〉であろう。ここの部分の意味は、〈なおいっそうかせぐ(ために)〉かもしれない。☞民話(2) 2-3
- 85-3 **eawnarura** エアウナルラ 〈(獲物)をとって来る〉。☞76-2
- 86-1 **oskoni** オスコニ ☞10-2
- 86-2 **tu ray-onkami re ray-onkami** トウ ライオンカミ レ ライオンカミ 直訳すると〈二つのすごい拝礼、三つのすごい拝礼〉。連用語として使われている。初出。tu...re... トウ...レ... の対句表現はこの場合たくさんくり返されたことを表す。
- 87-1 **keray ne p un** ケライ ネプン [さすがである・こと・(納得の助辞)] (さすがのこと(だなあ))。(語り手KM) : 「kamuy sasimi カムイ サシミ〈神の子〉(を)見て kamuy kamuy カムイ カムイ〈神、神〉と言っているの、それだけのことがよくできるということが keray ne p un ケライ ネプン)。
- 87-2 **kamuy kar okkaypo kamuy kar po** カムイ カル オックカイポ カムイ カル ポ 類似の語句を並べて対句にしている。〈神のつくった若者、神のつくった息子が私の息子だから〉とは、〈私の息子は神のつくった...だから〉。
- 87-3 **kar** カラ 二つ目の *kar* の *r* は、言いかけて声は出ていない。
- 87-4 **cikas nukar** チカシヌカラ 九鳥宮の声にかき消されて *nukar* の部分は聞こえないが、語り手に確かめた。*ci=* は中相接頭辞、*kas(i) nukar* は〈(神が)見守る=守っているいろいろとよくしてくれる〉。*cikas nukar e=ki* は、〈お前は(神に)守られ特別に恵まれている〉。
- 89-1 **kar pe uhayta** カル ペウハイタ 音声不明瞭だが、語り手に確かめた。〈することが不足している=不十分である〉。(ペナコリUT) : 〈仕事が足りない〉。
- 89-2 **uweturaste** ウウエトウラシテ (福満W)は *uheturaste* ウヘトウラシテ。☞(2)306-1
- 90 **kosinewe** コシネウエ 【他動】[...のところに・訪問する] (…を訪問する、…のところに遊びに行く)、*sinewe* は、仕事や争いなど、特別な用事のためではなく、ただ交際のために訪問することを言う。
- 91 **weysanpekor** ウエイサンペコル ☞16

wen kewtum kor pa wa,

92 'e=hokuhu kamuypirkare. pe
ne kusu, aoká akkari, a=onáha,
kamuy póho ne yak patek ye kor,
i=akkari etakasure (kewtumu)
kewtumu oro omare.

93 sinep takup ne kor pe ne
hawe ne pekor patek hawean kor
an kusu, i=kasuy wa i=kore yakne,
néun póka a=kar wa, e=hokuhu
a=rayke wa ne yak okake ta nispa
a=ne wa, a=e=pirkare kusu ne ruwe
ne na'

94 sekor, a=yuputari (iye) i=ye
ruwe ne korka,

95 'a=hokúhu (eok) ekot pe
anakne asinuma ka a=ekót kusu ne
ruwe ne na'

96 sekor hawean=an.

97 akusu orano, uwokari
uwokari i=toyko-kikkik. (a, a)
a=yuputari ye p somo a=nu hi,
i=koyruska kusu i=toyko-kikkik pa
ruwe ne korka, somo an kusu ne
na.

98 a=hekóte nispa ekimne yakka
yayitupareno apunno apkas, (su)
uturu ta anakne sini, wa,

99 a=komónmetu kane, (a) aep
ne ciki (un e) haru ne ciki nep
a=esírkirap somo ki kusu, uturu ta

神を持って、

92 【お前の夫は神に恵まれている。
だから、おれたちより、父は、神の
息子だとばかり言って、おれたちよ
りもずっと、特別に入れこんでい
る。

93 子どもはあいつ一人しかいない
ようにばかり言っているから、お前
が協力してくれるなら、なんとかし
て、お前の夫を殺して、そうしたら
そのあとで、われわれは金持ちに
なって、それでお前を幸せにしてや
るから】

94 と兄さんたちが私に言いまし
た。けれども、

95 【私の夫が死んだら、私も死にま
す】

96 と私は言いました。

97 すると、それから兄たちは代わ
るがわる私をひどくぶちました。私
が兄たちの言うことを聞かないのに
腹を立てて、私をさんざんぶちまし
たけれども、私はそんなことはしま
せん。

98 あなたは山へいらっしゃって
も、気をつけて無事に歩いてくださ
い。ときどきは休んでください。そ
して

99 食べ物でも食糧でも、あり余る
ほどあって、何一つ不自由しません

- 92-1 **kamuypirkare** カムイピркаレ [kamuy-pirka-re 神(が)・よくなる・させる]《神によって恵まれている》。獲物にも恵まれ、なにごともうまくいくことを言っている。主語はその恵まれている人。
- 92-2 **aoká akkari** アオカアッカリ 《われわれよりも》。伝統的なアイヌ語では、akkariアッカリに人称接頭辞がついて、i=akkari イヤッカリ という形になるところであるが、ここでは代名詞 aoká を置いたあと、人称接頭辞は落としている。すぐ後に、代名詞のないところで、i=akkari イヤッカリの形が出てくる。
- 92-3 **kewtumu oro omare** ケウトム オロ オマレ 直訳すると《気持ちをおの中に入れてる》。

95 **ekot** エコト (福満 S) の言葉では、《...で死ぬ、(ひどい病気)にかかる》。この語の含まれている部分は、直訳すると、《私の夫が死んだ死因は、私もそれで死にます》=《夫が殺されたら自分も同じ方法で殺されて死ぬ》。(千歳 SN)《刀で斬(き)られて死ぬか、ひもで首をしめられて殺されるか、刃物で殺されるか、そして夫が死んだら自分もそれで死んでいい》。(ペナコリ UT) : 《自分の夫も死ぬのなら自分も死ぬ》、「ekot pe エコトベは《もう死にそうになったら》、苦しんでもう、死ぬ生きるという間のこと》。

97-1 **i=koyruska** イコイルスカ 《私に対して腹を立てた》。ruska ルスカ【他動】《...を怒る、...のことで腹を立てる》、iruska イルスカ【自動】《腹を立てる》、koyruska コイルスカ【他動】[ko-i-ruska ...に対して・ものごと・に腹を立てる]だから、somo a=nu hi ソモアヌヒ《私が言うことを聞かないこと》という目的語は、計算上は取れないはずだが、このように言っている。このような例は初出。

97-2 **somo an kusu ne** ソモアンクスネ kusu の部分が不明瞭で、kucum クチュムのように聞こえるが、語り手に確かめた。somo an ソモアンは《(そんなことは)起こらない》。この場合、an アンは a=ki アキの代わりで、《不定の人がそうする=(そういうことがある、起こる)》、《(引用文中の)私がそうする》。この部分は、《私は兄たちの言うことを聞きはしない》ということを行っている。

98-1 **a=hekóte nispa** アヘコテ ニスパ ここから始まる引用は、主人公の妻が夫に言っている言葉だが、相手を 2 人称ではなく 3 人称に置いて言っている。この言い方は繰り返して出てくる。☞64

98-2 **uturu ta anakne** ウトゥル タ アナクネ 直訳すると《その間(あいだ)には》。山へ狩猟に行くときと行くときの間には。

99-1 **a=komonmetu kane** アコモンメトゥ カネ (語り手 KM) : 《余るほど》。komonmetu、monmetu 共に初出。metu メトゥは、iyemetu イイエメトゥ《酒を飲み残して人に持って行ってあげる》、koyemetu コイエメトゥ《(人)に酒を飲み残して持って行ってあげる》(福満 S) の語構成要素として出ている。《余す》か。

anak sini ranke kor ekimne yak
pirka na."

100 sekor a=macíhi hawean
ruwe ne korka,

101 "hemanta a=kar kusu, néoro
ka arka ka somo ki p sini=an wa
án=an pe an?"

102 sekor yaynu=an pe ne kusu
o r o w a n o p ó h e n e
a=eyáyraketupa, yuk (ciko)
cikoykip kamuy cikoykip
a=eáwnarura.

103 (ci) cihoki poronno (ak, aw)
a=uwékarire kor, síporo (ci) cip,
cipsikeka a=nukár kane,
a=cipékusa wa repun=an kor,
a=onáutari mi kuni p, e kuni p,
(ku) ku kuni usa tanpaku ne ciki
sake ne ciki, kasi a=osé.

104 yaykata ne yakka,
a=eyáykotomte kunine a=macíhi
ekotomte kunine, saranpe ne ciki
usa okay pe nuwe a=koán wa
hosipi=an ranke kor án=an a p
póhene a=i=késke hi ne kuni
a=ramú kor án=an a p,

105 ora yayramu ka
yaykosiram suypa=an wa
a=huymampa wa inkar=an hike,

106 a=macíhi ka yúputari
kokewtumkor siri ne noyne

から、山へ行く間あいだに、ときど
きは休んでくださいませ]

100 と妻が言いましたけれども、
私は

101 「なんのために、どこも悪くも
ないのに休んでいるものか」

102 と思ったので、それからなお
いっそう仕事に精を出し、鹿や熊を
とって来ました。

103 交易品をたくさん集めると、
とても大きな舟に積んで、舟の後
尾に座って、舟で海を越えて沖の
国まで行つては、両親の着る物や食
べる物、飲む物もいろいろ、たばこ
やら酒やらを持って来てあげまし
た。

104 自分自身にも、自分に似合う
ような、妻に似合うような、絹やら
いろいろなものをどっさり手に入れ
ては帰つて来ていたのですが、それ
でなおいっそうねたまれているのだ
と思いましたが、

105 自分の心の内であらう、様子
をうかがっていると、

106 妻も兄たちと心を合わせてい
るらしく思われた

99-2 **uturu ta ... pirka na** ウトゥルタ ... ピッカナ 直訳すると《間には休み休みしながら山へ行ってください》。

101-1 **hemanta a-kar kusu** ヘマンタ アカルクス 直訳すると《私が何をしたために》。この引用の言葉は疑問の形をとった反語表現。

101-2 **néoro** ネオロ 《...の(体)のどこ》。なぜか、人称接辞 a=アがついていない。(福満 W, S)は、ku=neoro ka arka ka somo ki クネオロ カアルカ カソモキのように、人称接頭辞を伴って使っていた。

102 **e=yayrawketupa** エヤイラウケトゥバ ㊦85-2

103-1 **cipsikeka** チフシケカ [cip-sike-ka 舟・荷物・の上](?) cipsikeka a-nukár kane チフシケカ アヌカル カネ《舟の底/荷物の上(?)を見ながら》を、(福満 S)は、yaycipsikeka-nukar-an kane ヤイチフシケカヌカラン カネ と言い、《舟のともに座って》と訳した。積み荷を目的語とするときは、e-《...で》をつけて他動詞にして、a=eyáycipsikeka-nukar kane アエヤイチフシケカヌカル カネ(『音声資料3』)。「金ユ集1」5371: chipshike-ka ta 船の底板の上の」、5379~:「chipshike-ka un/usa tono amam /... 船の底板なる/色々な倭の穀物/...」。『バ辞典』:「shikeka 甲板. n. The deck of a ship」。『知地名小』sike の項:「舟底。=chip-sike」。

103-2 **a=nukár** アヌカラ onukár オヌカラ と発音されているが、言おうとした言葉は a=nukár アヌカラであろう。

104 **a=eyáykotomte kunine ... ekotomte kunine** アエヤイコトムテ クニネ ... エコトムテ クニネ (語り手 KM):《自分に似合うような、妻にも似合うような》。kunine クニネは直訳すると《...するように》。

105-1 **yayramu** ヤイラム [yay-ramu 自分・の心]《自分の心で、自分で(考えて)》。(ペナコリ UT):「自分でどうしようかなと思って考えている」。

105-2 **huymampa** フイマンパ 初出。語構成も語源も不明。(語り手 KM):《様子をうかがっている》。『萱野辞典』:「フイマンパ (気をつけてよくよく)見る、観察する、見直す」。『中千辞典』「~を注意して見る」。『久辞典稿』:「huimampa 気を付けて見る、種々くり合わず、都合をつける」。

106 **kokewtumkor** コケウトウムコロ [ko-kewtum-kor と一緒に・心・を持つ]《...と心を合わせる》。

yaynu=an kor án=an.

107 pe ne ruwe ne a p sineanta,
sinean onuman, kiyanne a=yupíhi
ahun híne,

108 "kamuy a=akíhi, a=kor pet
petetokoho ta (oman ru)
omanrupar, síporo omanrupar,
a=pa ruwe ne korka,

109 oar puyne, aoká patek ne
yakun, ene ne hi ka isam. kusu
nisatta, nisatta oyasim, (a) kamuy
(a) a=akíhi i=tura wa i=kore yakne
kamuy a=akíhi a=eníste wa, ne
omanrupar a=koyki kus ne ruwe
ne na"

110 sekor hawean kor ek
hikusu, a=kopán sekor ne yakun
póhene wen kuni a=ramú hikusu,
(a=e) a=koónkami.

111 akusu ora ramu hemesusu
ruwe ne noyne an híne soyne
hikusu okake ta,

112 "a=macíhi yúputari
kokewtumkor siri, a=eráman no,
án=an wa asinuma anakne, aynu
sani a=ne ruwe ka somo ne. kamuy
sasimi a=ne wa án=an wa, kamuy
a=onáha (i) i=uk kuni patek tére wa
an.

113 hi a=eráman wa án=an ruwe
ne kus te wano anakne, ne

107 のですが、ある時、ある晩、
年上の兄が入って来て、

108 「弟君、私たちの川の水源のと
ころに熊の巣穴、とても大きい熊の
巣穴を見つけたのだけれど、

109 ただ私たちだけでは、どうし
ようもないから、あす、あすかあ
さって、弟君が私たちと一緒に
行ってくれたら、弟君を頼りにして、そ
の巣穴の熊をとるから」

110 と言ってきましたので、いや
だと言ったら、なおよくないと思
いましたから、私は拝礼しました。

111 すると、兄は安心したらしい
様子で、外へ出て行きましたから、
その後で、

112 「妻が兄さんたちと心を合わせ
ているのを、私はわかっている。そ
して私は人間の子ではない。神の子
なのだ。そして神である父が、私を
天に受け入れようとばかり待ってい
る。

113 そのことを私はわかっている
から、これから、その熊の巣穴へ熊

- 108-1 **kamuy a-akíhi** カムイ アアキヒ ここから始まる引用は、長兄が主人公に向かって言っている言葉だが、ここでも、98-1と同様、相手を3人称に置いて言っている。
- 108-2 **omanrupar** オマンルバラ [oman-ru-par 行く・道・口] (語り手KM) : 〈クマの巢〉。(ペナコリUT) : 〈あの世〉、「熊の巢穴は kamuy suy par カムイ スイ バラ」。「萱野辞典」: 「冥土の入口」。「久辞典稿」: 「oman rugar 死の国への洞窟の入口」。
- 109 **koyki** コイキ 〈(その熊の巢穴)を襲う〉。

- 110-1 **póhene wen** ポーヘネ ウェン 〈なおいっそう悪い〉。承諾すれば殺されるが、断つたらもっとひどい目にあわされる。
- 110-2 **a-koónkami** アコオンカミ オンカミ(拝礼する)は、この場合は承諾の印として、のどの奥から出す低い声で *m, m, m, m, m* ムムムムムー と言いながらしているのだろう。

- 112-1 **kokewtumkor** コケウトウムコロ 妻に言っているのだが主語は a-macáhi〈私の妻〉で、3人称。この引用の後半(114)では、妻を2人称に置いている。
- 112-2 **kamuy sasimi** カムイ サシミ 〈神の子〉。(福満W, S) は sasimi サシミではなく sasini サシニと言っていた。sani サニ(子、子孫)(語源は〈出たもの〉)の sa サの後に同じ子音 s を繰り返し、ni の前に同じ母音 i を繰り返して作られた語であろうか。(千歳SN)の言葉でも同じく sasini サシニ。(ペナコリUT)は、この語り手と同じく sasimi サシミと言う。

omanrukoyki kusu arpa=an をとりに行ったら、すぐに、上天の
yakun, nani, rik un kanto un 神である父のところへ帰るのだから
kamuy a=onáha eun hosipi=an ね。
kusu ne ruwe ne na,

114 i=okake ta, e=yuputari 114 私が死んだ後で、お前は兄さ
ramuosma kunine, pirka hoku んたちが賛成してくれるように、よ
e=kor wa, án=an hi akkari, (e, eyay, い夫を持って、私がいた時よりも
e, e) e=yaypikare wa e=an yak もっと幸せになって暮らしなさい」
pirka na”

115 sekor a=macíhi (a) a=ye 115 と私が妻に言うと、
akusu orano,

116 “ a = y u p u t a r i 116 「兄さんたちと心を合わせてい
a=kokéwtumkor somo ki p somo ないのに、いないのに」

ki p”

117 sekor hawean hikeka, tane 117 と妻は言いましたけれども、
anakne a=hoppa kuni patek 私は今は妻を残して行こうとばかり
a=ramú p ne kusu a=epéttesu hene 思うものですから、たたきなです
ki ka somo ki no rewsian=an. こともしないで、一晚寝て朝になり
ました。

118 isimne, na (moyre) moyre 118次の日、もっと遅くの話だと
(ma) isoytak ne hawe ne kunak 思っていましたのに、まだ夜明け前
a=ramú a p, nókunneywano, に、兄さんたちがドサドサと入って
a=yuputari (ca) cawnaraypa wa, 来て、

119 “a=akíhi tan pe or ta mak iki 119 「弟よ、今日に限ってどうして
híne ene hopuni moyre, こんなに起きるのが遅いんだ、

120 kesto kesto, sirpekertere wa, 120 毎日毎日、夜が明けるのを
sirpeker (ko) kotpok ta soyne, 待って、夜が明ける間際(まぎわ)に
sirkunne kotpok ta ahun kor an a 出かけて、日が暮れる間際に家に
p, hopuni moyre siri an?” 帰って来ていたのに、今日は寝坊し

121 sekor (hawean hikusu na) ているんだねえ」

haweoka hikusu nani 121 と(言いますので・・・)言
matkosanu=an híne, wenna いますので、私はすぐに飛び起きて、

114 **ramuosma** ラムオスマ [ramu-osma その心 [所]・に入る]〈同意する〉。kunine は 〈…するように〉。

116 **somo ki p somo ki p** ソモ キフ ソモ キフ 〈しないのに、しないのに〉。同じことを繰り返し何度も言ったことを表すのに、最後の部分だけを繰り返す。

117-1 **epettesu** エペッテス 【他動】[e-pet-tesu (そこに)・指・をすべらす](?) (語り手 K M) : 〈たたきなでみたいにする〉。(千歳 S N) : 「軽くなぜるみたいなまね」「ちょっと何か、夫に気の合わないような言葉を出したから「なに、このやろう」ってやる」「子どもにもやることもある。お母さんでもお父さんでも」。この二人の示す仕草を見ると、平手でたたきながらその手をサッとすべらせる。「なでる」、「なぜる」といっても、愛情の表現ではなく、むしろ怒りの表現らしい。(ペナコリ U T) : 〈すべった〉。

117-2 **rewsian** レウシアン 【自動】[単] [rewsi-an 泊まる・ある]〈一晩寝て朝になる〉。

119 **tan pe or ta** タンペオッタ [この・もの/こと・のところ・に]〈今回は〉。(語り手 K M) : 〈今日に限って〉。

120 **sirpekertere** シルペケレテレ [sir-peker-tére あたり・明るくなる・…を待つ]〈明るくなるのを待つ、夜明けを待つ〉。rの後にtが続くとき、rはtになり、この語は通常はsirpekettereと発音されるが、ここでは、tの前のrが、はっきりrにも発音されず、tにもなりきらず、中間のような音に発音されている。

121-1 **heweoka** ハウエオカ 早口に発音されてhawoka ハウオカと言っている。

wenno, a=wenmacihi súpá wa okay pe a=e tek.

122 akus nani, a=macíhi ka turano, re irwak (cowkot) cowtomkoppa wa pet turasi paye hike os arpa=an orano, siwente=an pekor iki=an kor i=tere wa oka pekor (e)

123 “makanakip ta, tan pe or ta (kamuy a=yu, a=onáha, taka) kamuy a=akíhi siwente kaspa siri ene an?”

124 sekor haweoka kor i=tere i=tere pa kor, paye=an ayne, a=kor pet petetoko ta síkuma ka a=ohémesu.

125 akus síkuma ka ta, uren pira pirakotor carpirpiru, pirakotor petetok ne híne ora,

126 hattar, síporo hattar, cúkopoyepoye hattar an siri a=nukár kor sítu turasi hemespa=an híne, paye=an ayne, sítu ka ta hemespa=an akusu,

127 íne ikuspe roske pa híne, ínen a=ne wa rók=an kunine (rok) aynu (rok) rok uske kar pa, ora (ape) apeoy ka kar pa híne okay pe ne aan wa, oro ta paye=an ruwe ne akusu,

128 “hetak hetak a=turésihi suke

そそくさと悪妻が煮てあったものをちよっと食べました。

122 すると、すぐに妻も一緒に、三人兄弟が歩調を合わせて、川に沿って上がって行きましたが、私はそのあとからついて行き、まるでさっさと歩けないように、のろのろ行くと、彼らは私を待っているみたいで、

123 「どうしたんだ。今日に限って(兄君、父君、だか)弟君は歩くのがあんまり遅すぎるねえ」

124 と言いながら、私を待ち待ちしています。私たちはそのようにしてずうっと行って行って、ようやく私たちの川の水源にある山頂まで登りました。

125 すると、山頂に、両側の崖の面が、木も草も生えていないまるっきりの崖面が、川の水源になっていて、

126 深い淵、実に大きな深み、渦巻いている深い淵があるのを見ながら、尾根づたいに登って行って、しばらく行って、頂上まで登ると、

127 兄たちは、柱を四本立てて、私たち四人で座れるように、人が座る場所を作り、それから、(火)炉も作ってあったのでした。そこに行きますと、

128 「さあさあ、妹が食事のしたく

121-2 **wenno wenno** ウェンノ ウェンノ 直訳すると《悪く悪く》だが、《おおざっぱに、とばしとばし》。この場合は、妻の料理のしかたではなく、食べ方のことを言っている。
(語り手KM) : 《少し少し(食べた)》。

122-1 **re irwak** レイルワク 語り手があとで **re irwak ne wa** レイルワクネワ《三人兄弟で》とも言った。

122-2 **cowtomkoppa** チョウトムコッパ 初出。(語り手KM) : 《(三人が)そろった歩き方をして》。[c(i)-o-u-tom-kop-pa (中相) ...される・そこに・互い・の正面/真ん中・(?)・[複]](?) kop は初出、意味不明、[<kote...に結びつける]か。

122-3 **oka pekor** オカペコル この後に e とも i ともつかない母音が聞こえるのは、**pekor iki** ペコルイキ《...するようにして》と言いかけたものか。

123-1 **makanakip** マカナキヤ 《どうしたんだろう》《どうしたのか...》いぶかって言う表現。(福満S)は日常会話でよく **mákip** マキヤと言っていた。

123-2 **tan pe or ta** タンペオッタ ⇨119

124 **síkuma** シクマ 《高い山の頂上、峰》。(語り手KM) : 《高い山》。

125 **uren...** ウレン... ここから126の終りまで挿入句。少し前にさかのぼって言っている。

126-1 **hattar** ハッタラ (語り手KM)は、ときにより、**hattara** ハッタラとも、ハッタルとも発音している。

126-2 **sítu ka ta** シトゥカタ 《屋根の上に》。**síkuma ka ta** シクマカタ《頂上(峰の上)に》ではないのだろうか。

yakne, (i) ipe=an wa ora, ta, taan pira a=oíka kor an omanrupar ne kusu, (a=koyki) a=koyki kus ne na hokure hokure, a=turési suke yak pirka pirka”

129 sekor, haweoka híne ne, a=macíhi suke kor an a p, ora (i) ipe=an kusu rók=an kusu ne akusu, pira párrupo: ta, á=an kunine i=rokte pa.

130 hikus ta, pirka ram ne (i=ye) i=ramu pa wa i=tura pa hi somo ne hi a=eráman no a=turá p ne kusu, ene haweoka hi néno pira párrur ta móno á=an akusu, (o) itanki or iyo (a) a=macíhi ki híne, i=kopuni.

131 híne a=uk kusu, tektarara=an a p rápok,

132 “hetak”

133 sekor haweoka híne, ren ne wa matkosanpa. híne pira i=oykare.

134 ora pira kotor péka karkarse=an. karkarse takup (ne ya) ne yakka a=unín pe pira a=i=ékik humi, a=esánpekese-ciskot kane yaynu=an kor, pira a=oíka, hattar or a=osma.

135 a p ineap ta rap (tu) túnas pa kusu tanne cikuni anpa kane oka wa, rap pa wa,

をしたら、食べてから、ここの、この崖を越えるとある熊の巣穴だから、そこへ熊をとりに行こう。さあ早く、妹よ、食事のしたくをしろ、しろ」

129 と言って、私の妻が食事のしたくをしていましたが、こんど食事をするために、座ろうとすると、ちょうど崖つおちのきわのところに私が座るように座らされました。

130 ですから、私のことをよいい心で思っで連れて来たのではないことを私はわかっていてついて来たのですから、言われたとおりに崖つおちに座ると、妻がおわんに食事をよそって、私に差し出しました。

131 そして私が受け取るために手を伸ばしたときに、

132 「それ！」

133 と言って、三人で、パッと立ち上がって、私を崖から突き落としました。

134 崖の面を私は転がりました。転がるだけでも痛いのに、崖に身を打ちつけて、気持ちが悪くなるくらい痛く思いながら、崖から落ち、深い淵の中に落ちました。

135 けれども、なんとまあ彼らは下りて来るのが早くて、長い棒を手を持っていて、川のところまで下りて来ました。

128 **oika** オイカ [o-ika その尻が・…を越える]《(山や尾根のような高いところをまたぐように)越える》。(語り手KM)：「火をたいたところより、なんぼか高いのではないか。oika オイカと言うとまたぐような感じだから」。発音は oyka ではなく、iイが高い。

129-1 **pira páurpo: ta** ピラ パルルポー タ pira páurur ピラ パルルは [崖(がけ)・のふち]。páurur パルルに指小辞-po ポががついて強調されて伸ばされ、《…のギリギリのふち、際(きわ)》。

129-2 **i-rokte** イロクテ 自分は一人だから i=are でよいところだが、主語(兄弟妹)が複数なのでこの形を使ったのだろう。

130 **a=eráman** アエラマン (語り手KM)は、eramuan エラムアンと eraman エラマンとの二つの形を持っている。

131 **tektarara-an a p rápok** テクタララ アナ ラポク [tek-tarara 手・を上へ上げている] (語り手KM)：《手をのばしたときに》。

133 **i=oykare** イオイカレ [i=oika-re 私に・…を越える・させる] oika オイカ《…を越える》、oikare オイカレ《…を越えさせる》では i が高く強いが、i= がついてアクセント核が前に移り、o が高くなって、oi が oy と二重母音になる。この場合は、がけの上から押して谷底に突き落としたことを言っている。ただし、☞128

134 **esanpekese-ciskot** エサンベケセチスコト [e-sanpe-kese-cis-kot (それ)で・心体の中・の末端・(?)・…につながる] (?) 初出。この語の含まれている部分、(語り手KM)：《気持ちが悪くなるくらい痛い》。静内方言に次のような用例がある。「an-esampekese-ciskot kane アネサンベケセ チッコク カネ私は苦しくて呻いて」(虎尾ハル)(『アイヌ民話』北海道教育委員会, 1988, p. 142, 志賀雪湖執筆)。「sanpewen-an ciskot-an kane サンペウンアン チッコタン カネ私は死にそうに苦しくて」(織田ステノ)(『静内地方の伝承Ⅲ』静内町教育委員会, 1993, p. 227, 奥田統己執筆)。

136 móm=an wa hattar (o, o) or
ta cúkopoypoye=an hikeka
sipusu=an kor, eun tanne cikuni
kor pa wa, (e, e) i=pekokikkik. kor
suy rawosma=an ranke
rawosma=an ranke.

137 sekor sekor ora, ne (a)
weysanpekor pa (i, i) irwak utar
isoytak.

138 "ta pakno ne yakun, néun
kamuy ne yakka, tane anakne
siknu eaykap hikusu, hetak hetak
a=uní un hosippa=an wa,
a=onáutari, a=koásurpusi kusu ne
ruwe ne na,

139 'ne (o) omanrupar (a=koyki
wa,) a=koyki akusu,

140 tane pakno nuwe a=koán
(hikekeka) hikeka a=nukár ka
eramiskari síporo kamuy a=rayke
híne, a=ri akusu sanpehe, kamuy
(a=poho, a) a=akíhi e eyaytupa wa
an,

141 néun a=kokópan yakka, ne
kamuy sanpehe, kamuy a=akíhi e
akusu ora, ekohopi, hokus híne,
ray wa kasi a=ohástuye wa sáp=an
ruwe ne na'

142 sekor, a=onáutari a=kosúnke

136 私は流れて、滝壺の中で渦に
巻かれていましたが、私が浮き上が
ると、彼らはそこへ長い棒を持って
水と一緒に私をたたきました。する
とまた、私は沈んだり浮いたり、沈
んだり浮いたりしていました。

137 ということですが、こんどは
その悪い根性を持った兄弟たちが話
します。

138 「ここまでやれば、どんな神で
も今はもう生きていられないから、
さあさあ早く家に帰って、父たちに
知らせよう。

139 「その熊の巣を(襲って、)襲っ
たところ、

140 今までもたくさん獲物をとっ
たけれども見たこともない、巨大な
熊を殺して、皮を剥いだところ、そ
の心臓を、(息子殿)弟君が食べた
がっていて、

141 いくらだめだと言っても聞か
ないで、その熊の心臓を弟君は食べ
てしまった。するとまもなく、ひっ
くり返って死んでしまった。それで
その上に木の枝を切って掛けて帰っ
て来たのですよ」

142 と、父さんたちをだますか

- 136-1 **móm-an** モマン 初めの m がはっきり出ていないのは、口をふきながら話しているためである。
- 136-2 **cúkopoypoye** チュコポイポイエ **ukopoypoye** ウコポイポイエ の中相形で、〈うずまいている〉。ここでは、うずかに巻かれてグルグル回っていることを言っている。【音声資料5】(二風谷HC民話)の **cúkopoyepoye** チュコポイエポイエ も同じ言葉である。**ukopoypoye** ウコポイポイエ/**ukopoyepoye** ウコポイエポイエ は **ukopoye** ウコポイエ〈かきまぜる〉の重複形。
- 136-3 **i=pekokikkik** イベコキッキク [i=pe-ko-kikkik 私を・水・と一緒に・何回もたたく] (語り手KM) : 〈水と一緒にたたいた〉。(千歳SN) : **i=pekokikkik** イベコキッキク〈(水中の人が)手で水の表面をパシヤパシヤたたく〉。
- 137 **sekor ... isoytak** セコロ ... イソイタク 語り手の卜書き。次の行からは、「精神の悪い兄弟が語る」と言っているが、その兄弟の中の妹、つまり殺された「神の子」である男の妻の自叙となる。
- 138 **koasurpusi** コアスルプシ **koasurani** コアスラニ〈緊急事態を知らせる、警報する〉の類義語だが、もっと重大な、凶報を知らせることらしい。〈...に事故/事件の知らせを伝える〉。[<ko-asur-pusu...に・うわさ・を掘り出す]か。**pusu** プスは、地中や水中に隠れているものを掘り出すとか、見えるところに取り出すことを言うが、**pusi** プシはわからない。語末の u が何らかの原因で i に変わったのではないか。【萱野辞典】:「アスルプス 知らせを持って行く」、「コアスルプス (〜)知らせる:聞かせるのがいやなことだが知らせる。親とか兄弟が急死した場合などに使う」。 **koasurani** コアスラニ は 神謡 21
- 141-1 **ekohopi** エコホピ 【後副】〈...から分かれて/離れて〉。しかし、この語の含まれている部分、(語り手KM) : 〈...食べてまもなくひっくり返って死んだ〉。 **ekohopi ray** エコホピ ライ〈まもなく死ぬ〉という慣用句か。【民話(2)】52に、 **ekohopi a-rayke** エコホピ アライケ が出ている。 **ekohopi** エコホピ は、この世から分かれていくことを指すのか。
- 141-2 **ka(si) ohastuye** カシ オハットウイエ [ka(si) o-has-tuye その上・に・細枝・を切る] (山で急死したため埋葬することができないので)〈細い枝を切ってその遺体の上に掛ける〉。
- 141-3 **sáp-an** サパン 山から村へ帰るときは川上から川下へ来るので **ek** エク [単]、 **arki** アルキ [複] ではなく **san** サン [単]、 **sap** サフ [複] が使われる。
- 142-1 **kosunke** コスンケ [ko-sunke...に・うそをつく]〈...にうそを言う、...をだます〉。

- kusu ne ruwe ne na, (a) a=turésihi 143 せくら、妹も同じように言いなさい
- ka néno hawean yak pirka pirka”
143 sekor, kiyanne a=yupíhi 143 と年上の兄が言って、私はそ
hawean wa (sa, a) néno (ne) ne うすると答えて、私たち三人で歩調
kuni a=ye kor, ren a=ne wa ora を合わせて下って来ました。
cowntomkoppa=an wa (sa) sáp=an.
(a, ay)
144 hikeka néun a=ramú ka 144 ところが、なんとも思わない
somo ki no sáp=an ayne tane, 144 はずうっと下って来て、もう私たち
a=kotánu karanke un sáp=an humi の村の近くまで来たように思ったと
ne kuni a=ramú kor, き、
145 “sirkunne hi a=tere wa, 145 「日が暮れるのを待って、日が
sirkunne wa ora kotan or osan=an 暮れてから村に帰ろう」
kus ne na”
146 sekor kiyanne a=yupí 146 と年上の兄が言って、それか
hawean híne ora sini=an pa sekor ら休もうと言ったときに、こんどは
ne kor ora,
147 Yúpet emkoho ekotanne 147 湧別の中流域の村に住む人
kur, ne kamuy póho resu wa an が、その神である息子を育ててい
wa て、
148 kamuy ne kusu etakasure, 148 神だから、特別に、自分が生
(yayka) yaykata (yay) yaykosanke 148 んだ息子たちよりも、その神なる息
póutari akkari epirka wa 子ののおかげで暮らしがよくなって、
esiyokunnure kor an pe ne ruwe いばっていたのですが、人間の息
ne a p, (a) aynu póutari, kor wen 子たちが、その悪い精神、悪い根性
kewtum, kor wen katcam an kusu, のせいで、
149 kamuy a=poho keske pa 149 神であるわが息子をねたみ憎
noyne yaynu=an kor án=an orano んでいるらしく思っていました。そ
kamuy a=poho ekimne kor れから、私の神である息子が山へ

142-2 **hawean yak** ハウエアナク 続けて **haweanak** ハウエアナク と発音されている。

143 **cowtomkoppa** チョウトムコッパ ここでは、(語り手KM) : <(一緒に、競争みたいにして)>。☞122-2

145 **osan** オサン [o-san...に・川上から川下へ行く/来る]<(村)に行く/来る>。この場合は村に帰ること。山から下って来たので、**san** が使われている。

146-1 **sini** シニ つかれてから休息をとることだけでなく、歩いて働いていたものが休止することも言う。

146-2 **sekor ne kor** セコン ネ コロ (語り手KM) : <(休もう)と言ったときに>。

147-1 **Yúpet...** ユペト... 148の終りまで、語り手のト書きで、3人称になっている。

147-2 **kamuy póho** カムイ ポホ <神の息子>(親が神)と<神である息子>(息子が神であるか、または神のように立派である)との二つの意味があるが、ここでは、すぐ後の149に **kamuy a=poho** カムイ アポホ<神であるわが息子>が出てくるので、<神である息子>の意味にとれる。

148-1 **yaykosanke** ヤイコサンケ [yayko-sanke 自分で・出す]<自分で生む>。『音声資料1』(福満W神謡語り)で、女が出産した場面で使われているが、ここでは男の実子のことを言っている。

148-2 **esiyokunnure** エシヨクンヌレ 【他動】[e-siyokunnure...で・いばる](語り手KM) <(父が)いばっていた>。(ペナコリUT) : <いばる>。(福満S) : **siyokunnure** シヨクンヌレ<えらそうにする>、**siyokunnure wa an** シヨクンヌレ ワアン<えらそうな恰好している>。『萱野辞典』 : 「シヨクンヌレ いばる、えらぶる」。

149-1 **kamuy a=póho** カムイ アポホ 3人称のト書きから、いつのまにか、兄弟の父親である老人の自叙に変わった。

| | |
|---|---|
| sermakaha (tus, a, a) a=nonnoytak kor, án=an wa apunno hosipi ranke kor an pe ne ruwe ne a p, 150 tan pe or ta anakne earkinne a=epótara híne, wenruy wenruy wa, orano kamuy-oroytak=an kor, tu kamuy sinrit re kamuy sinrit a=opéntari kamuy-oroytak=an kor án=an a p, 151 a=kor nusa or un, kararak sine p, pet pes san híne, nani a=kor nusa or ta rew híne, cise hekoteno an wa, hepoki hetari kor, ene hawean hi, 152 "kararak to Yupet emko un kur 153 kararak to itak=an ciki 154 kararak to e=nu katu anakne 155 kararak to ene an hi 156 kararak to e=wenpoutari 157 kararak to kamuy e=poho 158 kararak to pirka sirihi 159 kararak to keske pa wa 160 kararak to | 行ったときはいつも、私はそのかげ で折っていました。それで無事に 帰って来ていたのですが、 150 今日に限って、私はとても心 配で心配でたまらなくて、何度も何 度も神様にお祈りをして、二人も三 人も神々の先祖にお願いして、 祈っていましたが、 151 私の祭壇のところへ、カラス が一羽、川上の方から川ぞいに下っ て来て、すぐに私の祭壇にとまっ て、家の方を向いて、首を上下に振 りながら、こう言いました。 152 「カララク トー 湧別の中流域の人よ 153 カララク トー 私が言うことを 154 カララク トー よく聞き 155 カララク トー なさい。 156 カララク トー お前の極道息子たちが 157 カララク トー 神であるお前の息子の 158 カララク トー 幸せなのを 159 カララク トー ねたんで 160 カララク トー |
|---|---|

149-2 **sermaka(ha) nonnoytak** セルマカ(ハ) ノンノイタク [その蔭(かげ)・を祈る] ここでは《神に守ってもらえるようにと無事を祈る》。「民話(2)」39では、逆に《のろいをかける》ことを言っている。『萱野辞典』:「セレマカシアコノンノイタク 不運を念じる」。

150-1 **kamuy-oroytak** カムイオロイタク [kamuy-or-o-itak 神・のところに・話す]《神に願いごとを言う》。これも日本語では《祈る》、inonnoytak イノンノイタク も《祈る》だが、後者は《祈祷する》。

150-2 **opentari** オペンタリ 【他動】初出。(語り手KM):《(神に)お願いする》、「アイヌの神様をお願いすること」。「萱野辞典」:「素性を言う。ドカムイ シンリッ レカムイ シンリッ ア・オペンタリ 二つの神の先祖、三つの神の先祖、その素性を私は言う。*困って神々に頼みごとをする時」。

151-1 **karak** カララク 《ハシボソガラス》。(福満S):「よいカラス、karr, karr カルル、カルルと鳴く、くちばしの大きくないほうのカラス」。「知分類動」:「ハシボソガラス」。「萱野辞典」:「ハシボソガラス」。

151-2 **hepoki hetari kor** ヘポキ ヘタリ コロ 直訳すると《頭を下げたり頭を上げたりしながら》。

152 **karak to** カラクター ここから176まで、カラスの言葉の引用。はじめは節をつけ、折り返しをつけて歌い、最後の部分は節のない語りになる、という神謡の形式になっている。ただし、最後の語りの部分も、引用者の言葉ではなく、176まで全部がカラスの言葉の引用である。

153 **itak=an ciki ... ene an hi** イタカン チキ ... エネ アニ 直訳すると《私がしゃべったら、あなたが聞く事の次第はこのようなこと》=《これから私の話すことを聞きなさい》。

156 **e-wenpoutari** エウェンポウタリ 語幹は wenpoutar ウェンポウタラ。wen ウェン《悪い》が親族名を表す語に接頭して、ののしりを表している。70-1の a-wenmatnepoho アウェンマトネポホの場合は、親が謙遜して言う言葉。

158 **pirka** ピッカ 《よい》は、この場合、何事もうまくいって、獲物にも恵まれ、交易でももうけて豊かになっていることを指している。

| | | | |
|-----|--|-----|---|
| | hattar or un omare pa wa | | 深い淵の中に入れて |
| 161 | ronnu pa wa isam na | 161 | 殺してしまったぞ。 |
| 162 | kararak to kamuy e=poho | 162 | カララク トー 神であるお前の息子が |
| 163 | sinenne wa ne yakne, | 163 | 一人だけであったなら |
| 164 | kararak to yaykatcipi wa | 164 | カララク トー 生き返って |
| 165 | e=kohosipi | 165 | お前のところに帰って来る |
| 166 | easkay korka | 166 | ことができたけれども、 |
| 167 | kararak to kamuy e=poho | 167 | カララク トー 神であるお前の息子を |
| 168 | kamuy onaha | 168 | 神である父親が |
| 169 | po kemnu kusu | 169 | かわいそうに思ったので |
| 170 | kamuy e=poho | 170 | 神であるお前の息子の |
| 171 | rámacihi uk wa isam wa, | 171 | 魂を取ってしまったので、 |
| 172 | yaykatcipi wa e=hekote hosipi ka (eayp) eaykap ruwe ne na. | 172 | 生き返ってお前のところへ帰 ることができないのだよ。 |
| 173 | kararak tono a=ne wa, a=e-kóasurani. | 173 | カラスの王である私が、お前 に知らせるのだ。 |
| 174 | tane tane e=poutari ukopewt tanketurpa kor, e=koasurpusi humi (ne) ne kunak yaynu pa kor arki pa yakka, | 174 | まもなくお前の息子たちが皆 でペウタンケしながら、お前に知ら せようと思ってやって来るけれど も、 |
| 175 | e=wenpoutari kor wen katcam, kor wen kewtum an kusu, kamuy e=poho a=keske wa isam ruwe ne na. | 175 | お前の極道息子たちの悪い根 性、悪い精神のせいで、神である息 子がねたまれて死んでしまったのだ ぞ。 |
| 176 | kamuy or wa an wa ne yakka, ene eci=ikí wa eci=ónne kuni, eci=epúnkine eci=resú | 176 | 神の国にいても、お前たちが 育てた神である息子が、お前たちが ちゃんと生活して、天寿をまっとう |

161 **ronnu** ロンヌ 〈(二人以上)を殺す〉。殺した相手は一人だが、神謡の形式でカラスが歌っているので、目的語複数の **ronnu** ロンヌ が使われている。93の兄の言葉の引用では単数の **rayke** ライケ が使われている。ronnu ロンヌ のあとの **pa** パ は、殺したほうが複数であることを示している。

164 **yaykatcipi** ヤイカッチピ [yay-kat-sipi 自分の・あり方・をもどす(?)]〈生き返る〉。初出。民話(2)142にも出てくる。

173 **karakak tono a-ne wa** カララクトノ アネ ワ 直訳すると〈私はカラスの王であつて〉。tono は〈殿、王、首領〉。☞民話(2)110-1

174-1 **ukopewtanke-turpa** ウコペウタンケトルパ [uko-pewtanke-turpa 皆で・ペウタンケ・を伸ばす]〈皆で一緒にペウタンケする〉。ペウタンケは、普通は女がするのを言うことが多く、一大事が起こったときに遠くの人に聞こえるように、細く高い、しかも大きい声で **woi, woi** ウォーイ、ウォーイ と繰り返す。山で熊に出会ったときなどは、初めはかすかな声で、徐々に声を大きくしていくという。(千歳SN)：「女は **pewtanke** というが、男は **humse** フムセ という」「男は、大声で **huo!** フォッと、遠くまで聞こえる大きな声を出して言う。女は、**woi** ウォーイ という声、細く高く大きな声、風の通るようなら1里余りも聞こえるくらい大きな声を出すことがペウタンケ」。

174-2 **koasurpusi** コアスルプシ ☞138

- kamuy e=poho ki kusu ne na, e=wenpoutari (an) anakne ene e=kar rusuy hi néno e=kar pe ne na”
- 177 sekor, kararak tono i=koasurpusi
- 178 orowano ene (wa) póka iki=an hi ka isam no, rayparaparak=an, (pewtakkean) pewtanke=an kor ki akusu a=kotánu un utar i=kouwekari.
- 179 “(ma) mak ne hawe ne ya ne ya ?”
- 180 sekor ne hikusu tapne ne hi a=ye kor án=an akus,
- 181 oro ta a=poutari ukopewtanketurpa kor, sípase kamuy kasi omare pa kor kamuy sanpe, hunna (e es) e eramiskari p ne wa kamuy sanpe kamuy a=poho e wa ekot hi ye pa kor apapa ta ahup pa hike orano,
- 182 (a) kiyanne a=poho poniwne a=poho a=urénteke ani sapauspe a=tekkonoye, a=macíhi matnepoho sapauspe tekkonoye, ranke corka rikun corka a=esírkikkik.
- 183 néun síno iki=an wa an humi ne ya ka a=erámiskari no a=utárihi i=tomma kárikari. kamuy a=poho ray rámaci ne yakka i=ka oyki kuni
- できるように守ってくれるから、お前の極道息子たちのことは、どのようにでもお前がしたいようにしなさい」
- 177 とカラスの王が知らせてくれました。
- 178 それから、私はなんともしようもなく、ベウタンケしながら、大声でワーワー泣いていますと、村人たちが集まって来て、
- 179 「どうしたんですか、どうしたんですか」
- 180 と言うので、事の次第を話していると、
- 181 そこへ息子たちが皆でベウタンケしながら、特別尊い神のせいにして、熊の心臓をだれも食べたことがないものでもないのに、熊の心臓を神であるわが息子が食べて当たって死んだということを言いながら、戸口のところに入って来ましたが、それから
- 182 私は長男と次男の髪を両手でねじってつかみ、妻は娘の髪をねじってつかみ、下の床(ゆか)、上の渡し木にたたきつけました。
- 183 自分がいったい何をしているのかもわからずについて、村人たちが、落ち着け落ち着けと、私を取り押さえました。神であるわが息子の

176 **eci-resú kamuy e=poho** エチレス カムイ エポホ これが主語。述語(ene eci=iki...) を先に言ったので、あとから補った主語のあとに **ki<する>**を置いている。

178-1 **pewtanke** ベウタンケ ㊦174-1

178-2 **i=kouwekari** イコウエカリ (=i=kowwekari) 語幹は [ko-uwekari...のところに・集まる]。

180 **tapne ne hi** タプネ ネ ヒ 直訳すると<こうこうである(ということ)>。

181-1 **ka(si) omare** カ(シ) オマレ 直訳すると<その上にのせる>、「民話(2)」262では、この意味で使われている。一方、ここではもう一つの意味、<...のせいにする>。(ペナコリUT) : <自分がしないことをかぶせた>。

181-2 **hunna ... ne wa** フンナ ... ネワ 反語。

182-1 **sapauspe a=tekkonoye** サパウスベアテッコノイエ [sapa-us-pe 頭・に生えている・もの]<髪の毛>、[tek-ko-noye 手・のところで・ねじる]<手でねじる/ひねる>。(千歳SN) : <髪の毛をねじりつかみした>。

182-2 **ranke corka rikun corka esirkikkik** ランケ チョルカ リクン チョルカ エシキッキク 直訳すると<下の チョルカ 上の チョルカ にそれをおつける>。(千歳SN) : 「手で髪の毛をねじりつけて、きっちりおさえておつけければ、下におつかる、上げれば天井におつかる」、「rikun corka リクン チョルカ は<上の方>、ranke corka ランケ チョルカ は so ka un ソカ ウン<床の上へ> sirkikkik シキッキク した<ぶつけた>から ranke corka ランケ チョルカ」、「corka チョルカ という言葉はなかなか言わない言葉だが、そういうときに言う、そういうような意見のしかたか、そうやって殺したとも言うからね、いよいよ腹立てばね」。「蒼野辞典」: リクンチョロカ ランケ チョロカ<「上へ逆さに、下へ逆さに」、チョロカは、「チ<それ>エホロカ<逆さま>」、(黒川てしめさんは チエホロカ と言った由)。「金ユ集1」: 「rikun chorka/ranke chorka/iekikkik 上の渡し木/下の渡し木/へわたしを打ちつけて」。「金ユ集5」「同6」にも、同様の文脈でよく似た用例がある。

183-1 **tomma kárikari** トンマ カリカリ 初めのは一部分九官鳥の声にかき消されて聞こえないが、二度目に言っているのははっきり聞き取れる。<(人)をしっかりとつかんでおさえる>。やめなさい、やめなさいと言って、しっかりとおさえられたことを言っている。(千歳SN) : しばらく会わない人に会って喜び合うときに、抱き合うようなことも、「itomma karikari イトンマ カリカリ と言えば言える」。しかし、「病気の人を押さえるようなときには言わない、そんなことをしたら死んでしまう」。

i=ram(picip)pirkare pa kor
i=tomma kárikari pa uske un
yaytomuskaru(a)n=(i, i)an wa,
inkar=an akusu

184 a=wenpoutari sapanum
takupi a=aní kane án=an wa orano
paraparak=an kor,

185 ne sapanum takup ne yakka
a=toykikkar kor a=osúrpa akus
a=utárihi mintar eepakke un
a=poutari kuri nuyna pa wa isam
pa siri ne kotom an.

186 orano, cis patek a=ki. kunne
hene tókap hene a=macíhi turano
cis patek a=ki kor oka=an.

187 ora sir-tókap kor sirkunne
kor, a=utári (uwekari uwekari)
uwokari uwokari arki pa wa tu
pirka kuni p re pirka kuni p
i=epakasnu pa kor, oka=an rápok
sine ancikar wentarap=an akusu,

188 néa kamuy a=poho tan pe or
ta an pirka póhene siyoarwente
pirka sirihi i=ehosino an wa cis kor
an ayne i=hekote sikiru híne ene
hawean hi,

189 “aynu a=onáha e=ne wa eani
pakno kewtumu pirka p (e, e)
isam pe e=ne aan. korka
e=wenpoutari kor wen kewtum an
kusú, (#) hattar or a=i=ómare.

死んだ魂も、私たちの面倒をみてく
れるからと言って、なぐさめなが
ら、落ち着かせようと取り押さえま
す。そうされているときに、私は、
われにかえて、見ると、

184 私は極道息子たちの頭部だけ
を手に持っていました。それから
ワーワー泣きわめきながら、

185 その頭部だけであっても、ひ
どくぶつけて放り出すと、村人た
ちは、庭のはずれに息子たちの遺骸を
隠してしまったようでした。

186 それから、私は泣いてばかり
いました。夜も昼も妻と一緒に泣い
てばかりいました。

187 そして毎日、昼も夜も村人た
ちが(両方から)代わるがわるやって
来て、いろいろとよいことを教えて
くれました。そうして暮らしている
うちに、ある晩私は夢を見ました。

188 あの神である息子が、この世
にいた時も美しかったのですが、死
んでからいっそう美しくなった様子
で、向こうを向いていて、しばらく
泣いていてから、私の方に向き直っ
て、こう言いました。

189 「人間のわが父であるあなた
は、だれよりも、心根のよい人です
た。けれどもあなたの極道息子たち
のせいで、私は深い淵の中に入れら
れました。

183-2 **yaytomuskarun** ヤイトムシカルン 《(何もわからなかった者が)気がつく、わかるようになる》。…uske un yaytomuskarun …ウシケ ウン ヤイトムシカルン 直訳すると《…しているところへ気がついた》=《…している状況の中で我にかえった》。☞2 eyaytomuskarun

184 **sapanum** サパヌム [sapa-num 頭・粒] 体から離れた頭、首級。

185-1 **takup** タクフ 《…だけしか…しない》。すぐ前で、sapanum takupi サパヌム タクピ と、所属形で言っているが、ここでは所属の対象なしに、一個の頭(首級)という物体を言っているので、概念形が使われている。

185-2 **mintar** ミンタラ (福満W, S)の言葉では mimtar ミムタラ。《庭》と訳すが、(語り手 KM) : 《戸口から出たところ、戸口の前、家の南側》。(福満 S) : 《家から出て西のほうの空き地、ごみ捨て場》。

185-3 **kuri** クリ kur クル(影、人やモノや神や霊などの見える姿や形)の所属形。村人たちは、遺骸が見えていたのを見えないように隠してしまった。(語り手 KM) : 「戸口から見えないように、戸口から出たところ(mintar ミンタラ)のはずれに、穴でも掘って、土をかぶせたのだろう」。kur クルの原義を『知著作集2』p. 205では「神」或いは「魔」とされている。

187-1 **sir-tókap kor sir-kunne kor** シリトカフ コロ シクンネ コロ 《昼になると、夜になると》=《毎昼毎夜》。

187-2 **tu pirka kunip re pirka kunip** トウ ピリカ クニフ レ ピリカ クニフ 直訳すると《二つのよいこと、三つのよいこと》=《たくさんのよいこと》。

188 **tan pe or ta an pirka póhene siyoarwente** タンペ オッタ アン ピリカ ポヘネ ショアル ウエンテ 慣用句、初出。(語り手 KM) : 《生きていたよりも死んでからのほうが特別きれいに見える》。siyoarwente ショアルウエンテは [si-y-oar-wen-te 自分・(挿入音)・全く・悪くなる・させる] か。『萱野辞典』シオアウエンルイの項 : 「タネ アン ピリカ シオアウエンルイ (今までの美しさ)それに増して今日の美しさ」。

189 **aynu a-onáha e-ne wa** アイヌ アオナハ エネ ワ 直訳すると《あなたは私の人間である父親であって》。☞173

190 yakka (hat) hattar kor
kamuy i=peka wa, ráy=an ka somo
ki no a=e=kóhosipi easkay pe

191 kamuy a=onáha, eytasa, ne
arpa=an hi ta arpa=an hi ta,
a=i=ékeske siri i=kemnu kusu, (ae)
a=ramacihi uk wa kamuy or ta
arpa=an wa án=an wa nep
a=esírkirap ka somo ki no kamuy
or ta án=an pe ora

192 eci=cís-núpehe a=oyepi or
(o) o wa ipe=an ka eaykap ani
sattek=an ka ki wa án=an ruwe ne
kusu,

193 nisatta wano anakne iteki
eci=cís no eci=oká wa ne yakne
eci=é kuni p ekuskonna apeetok ta
nupurihi a=ranke wa a=anú ranke
wa apunno pirka onne eci=(kip)kí
pa pakno kamuy or wa eci=kasí
a=oyki kusu ne ruwe ne na,

194 iteki eytasa cis wa (i, i)
i=kore"

195 sekor hawean humi ne (te)
pekor yaynu=an.

196 "a=poho" sekor hawean=an
kor a=teksitayki akusu nep ka
isam wa, orano póhene somo
cís=an kunak ye, pe ne a korka,
paraparak=an kor sirkopeker=an.

197 orano a=utárihi i=ka oyki.

190 でも、淵の神が私を受けとめて、私は死なずにあなたのところに帰ることもできたのですが、

191 神のわが父が、あまりにも、私がどこへ行っても、行った先々でねたまれひどい目に合わされるのを、かわいそうに思ったので、私の魂を取りました。それで私は神の国へ行って暮らしています。何不自由なく神の国で暮らしているのですが、

192 あなたたちが泣く涙が私の食器の中に入って、私はものを食べることもできず、そのためにやせ細っています。ですから、

193 明日からは、どうか泣かないで暮らしてください。そうすれば、あなた方が食べるものを、いつもいつも突然、横座(炉の東側)に、山のようにどっさりおろしてあげます。そして、あなた方が無事に幸せに年老いて死ぬまで、神の国から、あなた方の面倒をみますから、

194 どうかあまり泣かないでください」

195 と言ったような気がしました。

196 「わが息子よ」と言いながら、つかもうとしたところ、何もなくて、それから、なおいっそう、泣くと言われたのですけれども、声をあげて泣きながら、夜を明かしました。

191 **ne arpa=an hi ta arpa=an hi ta** ネアルパアニタアルパアニタ 《どこに行ってもどこに行っても》。ne ... hi ネ ... ヒは《どこの...するところもか》。

192 **ani** アニ 《...によって》。ここでは、《(ものを食べることができないこと)のために/のせいで》。

193-1 **apeetok** アペエトク [ape-etok 火・の先端]《横座》=《いろりの東側の座》。

193-2 **nupurihi** ヌプリヒ nupuri ヌプリ《山》の所属形、《その山》、ここでは食べ物の山。このような文脈で、23, 民話(2) 145では **toska(ha)** トシカ(ハ)《川堤、川岸の土手》が使われている。これまでの「音声資料」でも同様：(福満W, S) (二風谷HC, NK) (「音声資料2, 3, 5, 6」)。

193-3 **a-anú ranke** アアヌ ランケ この ranke ランケは反復を表す助動詞。毎日、朝も昼も晩も、食事のたびごとに繰り返されることを表す。a=ranke アランケのほうは他動詞。

196-1 **teksitayki** テクシタイキ [tek-sitayki 手・をたたく] 直訳すると《手をたたく》。しかし(語り手KM)：《息子をつかもうと思った》。

196-2 **póhene** ポーヘネ 《なおいっそう》。少しあとの **paraparak=an** パラパラクアン《大声で泣いた》にかかる。

196-3 **cis=an** チサン アクセント核のある、強い音節にあっても、iが無声化している。

(ke, ine) cikuni ne ciki aep ne ciki,
i-ka osike i-ka oyki kor (okay pe)
oka=an pe ne hikeka

198 ney ta pakno án=an hikeka
a=wen(pouta)poutari a=koyruska
humi patek a=eyáykosiram-suypa
kamuy a=poho a=oskur hi patek
a=eyáykosiram-suypa kor án=an
ayne

199 suy sine an ta wentarap=an
akusu, eytasa, (a, cis) cis patek a=ki
kor oka=an ani, earkinne kamuy
a=poho sattek wa heru pone takup
ne híne an wa,

200 "ta ene án=an ipe ka
a=eáykap, eci=cis-núpehe
eci=(ces)cis-etori a=oypepi osma
wa kamuy or ta án=an wa nep
a=esírkirap ka somo ki korka ipe-
eniwkes=an wa sattek=an wa
án=an ruwe ne kusu

201 i=erampokiwen wa a=ye p
nu wa, te wano póka somo eci=cís
no eci-oká yakne eci=ónne yakun,
kamuy or un a=e=síkotak wa
kamuy or ta utura oka=an pe ne
ruwe ne na, a=ye p nu wa i=kore"

202 sekor hawean yak a=takár
hi, hi orano (wa) kamuy or un
ráy=an (yak) yakne kamuy a=poho
eun arpa=an easkay (#) hi a=nu hi

197 それから村人たちが私たちの
面倒をみてくれて、たきぎでも食べ
物でも持って来て、世話をしてくれ
ていました。私たちはそうやって暮
らしていましたが、それでも、

198 いつまでたっても私は、極道
息子たちのことを憤慨することばかり
考え、神なるわが息子を惜しむこ
とばかり考えていて、しばらくたつ
と、

199 また、ある時、夢をみまし
た。あまり私たちが泣いてばかりい
るために、神なるわが息子はげっ
せりとやせて、ただ骨ばかりになっ
ていて、

200 「ほら私はこんなありさまで
す。食事もできません。あなた方が
泣く涙、泣く鼻汁が私の食器に入っ
て、神の国で暮らして、何のつらい
思いもしないのですけれども、もの
を食べることができず、やせてしま
いました。ですから、

201 私をかわいそうに思って、私
の言うことを聞いて、せめてこれか
らは、泣かないで暮らしてくださる
なら、あなた方が年老いて死んだ
ら、神の国にお迎えして、神の国で
一緒に暮らしますから、私の言うこ
とを聞いてください」

202 と言ったという夢を見まし
た。それからは、神の国へ、死んだ

197 **i=ka osike** イカ オシケ 《私に...を背負ってきて(=持ってきて)くれた》。[ka(si) o-sike...の上・に・荷を背負う]《(人)に(食べ物など必要なもの)を背負って行って(=届けて)あげる》。

199 **ani** アニ 《(私たちが泣いてばかりいること)のためにのせいで》。⇨192

200 **eci-cis-núpehe** エチチヌペヘ このあたりの eci エチの母音 i も cis チンの母音 i も無声化しており、esirkirap エシキラフの s のあとの母音 i まで無声化している。

201-1 **a=e-síkotak** アエシコタク 《私があなを自分のところへ呼ぶ》直前に eci=ónne yakun エチオンネ ヤクン《あなたたちが死んだら》と言っているのだから、なぜ 《あなた》だけなのかわからない。a=eci=sikótak アエチシコタク の言いまちがいか。

201-2 **ye p nu** イェヌ 《言うことを聞く》=《言われたとおりにする》。命令表現で、はだかの形になっている。このあとは...yakne...ヤクネ《...したなら》の構文の中で、eci=エチのついた形が出る。

202 **hawean yak** ハウエアナク 続けて haweanak ハウエアナク と発音されている。

orano a=eyáykopuntek.

203 “hetak ta heta túnas ráy=an yak pirka p pirka p”

204 sekor yaynu=an pa kor, oka=an ayne, tane, síno kemapase=an kor, hem tasum (hem sa) hem siyeye, a=ekót siri ne yakun,

205 ne kamuy a=poho (i) i=tak wa ne kuni a=ramú yakun a=kor katkemat ka (na) nani (i) i=ka rari i=os arpa yakun kamuy or un arpa=an hi ne nankor kusu

206 a=utárihi, i=nurappa yakun (sinri) sinrit or un (iru) i=nurappa yakka a=uk ka eaykap kusu, kamuy or un,

207 “kanna kamuy, kamuy ekasi a=nomi na”

208 sekor, haweoka kor, i=nomi yakne kusu póka, a=utári kar pe, kamuy or ta a=eyáykamuynere kusu ne ruwe ne na néno iki pa wa i=kore yak pirka na.

209 sekor Yupet emko un kur, utarihi kaspaotte kor onne (yaka) yak a=ye.

ら、神なるわが息子のところへ行けると聞いてから、私はうれしくなりました。

203 「ああ早く死ねばいいのになあ」

204 と私たちは思いながら暮らしてきましたが、今はもう本当に足腰が弱り、病気やら病やらにかかって死にそうになっていますから、

205 その神なるわが息子が呼びに来てくれたのだと思います。そうだとすれば、私の奥方もすぐに私のあとに続いて、私のあとから行くでしょうから、そうだとすれば私は神の国へ行くのでしょうから、

206 村人たちが私を供養してくれるなら、先祖の方へ向けて供養しても、私は受け取ることができないから、神の国へ向けて、

207 「天の神、神なるエカシをおまつりしますよ」

208 と言ってまつってくれるなら、そうしてくれるだけでも、村人たちがつくったものをもらって、それで私は神の国でちゃんと神らしく暮らせるのですから、そのようにしてくださいよ。

209 と、湧別川の奥の方の人が、村人に言いつけて、亡くなったそうです。

203 **pirka p pirka p** ピリカピリカピ 〈…いいのに、いいのに〉。繰り返し同じことを何度も思っていたことを表すのに、文の最後の部分だけを繰り返す、アイヌ語の言い方である。

204-1 **a=ekót siri** アエコト シリ 病気にかかって死にそうな様子になっていることを言っている。

204-2 **yakun** ヤクン 〈ならば〉。ここでは、〈…だとすれば〉。日本語ではむしろ「…だから」と言いそうなところである。

205 **i=ka rari** イカ ラリ [私・の上・を押さえる] 自分が死んだあとに続いて死ぬことを言っている。刺繍(ししゅう)で、糸を置いた上を別の糸で押さえていくことも **ika rari** イカ ラリ と言う。

208-1 **kusu póka** クス ポカ (ベナコリ UT) : 〈そればかりも〉。(千歳 SN) : 〈そればかりも〉。〈せめてそうしてくれればそれだけでも〉の意味であろう。

208-2 **kar pe** カルペ 直訳すると〈作ったもの〉。(語り手 KM) : 「イナウでも酒でも」。☞ 民話(2) 293

208-3 **eyaykamuyner** エヤイカムイネレ [e-yay-kamuy-ne-re...で・自分・神・になる・させる] 〈(それ)で立派な神になる〉、つまり〈その供物をもらって、そのおかげで神の国で立派な神らしく暮らせる〉。(語り手 KM) : 「神さんとしてあたりまえに...」。

209-1 **Yúpet** ユペト ここでは Ipet イペト と聞こえるが、ほかのところでは **Yúpet** ユペト と言っている。たぶんここでも **Yúpet** ユペト と言うつもりだったのだろう。

209-2 **emko** エムコ 〈半分〉の意味もあるが、川やその流域の **emko** エムコ は、(福満 W, S) : 〈奥〉。水源地までは行かないが、下流や中流の人が「川上」と呼ぶところよりもずっと上流の方を言う。(ベナコリ UT) も同様。【知地名小】 : 「①半分。②水源」。他の地方の話者にきくと、〈中流〉(hontomo ホントモと同じ) と言う人もいる。